

沼津市文化財調査報告書 第101集

拓南遺跡発掘調査報告書

2 0 1 1

沼津市教育委員会

例 言

1. 本書は静岡県沼津市足高 496-1 他に所在する拓南遺跡^{たくなん}の発掘調査報告書である。
2. 拓南遺跡の現地発掘調査は、新日本設計株式会社が建設する駐車場の工事に先立ち、平成 21 年 4 月 20 日から平成 21 年 7 月 31 日まで実施した。
3. 整理事業は、平成 22 年度埋蔵文化財発掘調査受託事業として新日本設計株式会社から沼津市が委託を受け、沼津市教育委員会が担当した。
4. 発掘調査の関係者は以下の通りである。

事業委託者	新日本設計株式会社	代表取締役	野田泰秀
事業受託者	沼津市	市 長	栗原裕康
事業主体者	沼津市教育委員会	教 育 長	工藤達朗
事業担当者	沼津市教育委員会	文化財振興課	
		課 長	上原正之 (H21) 宮下義雄
		課長補佐	後藤 豊 (H21) 山口正文
調査担当者		文化財調査係	
		係 長	高尾好之 (H21)
		指導主事	片桐誠一郎 (H21)
		主 事	原田雄紀 (H21)
整理担当者		係 長	山本恵一
		指導主事	前嶋秀張
5. 整理作業の実務は前嶋が担当し、沼津市文化財センターにて行った。事務処理は、事務補助員土屋周子が担当した。
6. 報告書の作成・執筆は前嶋が担当した。遺構図版・遺物図版・写真図版の作成は、整理補助員西川久美子・高林千明の補助を得た。
7. 遺物観察表の X 座標・Y 座標は、調査範囲内における任意座標で、Z 座標は標高であり、遺物の出土地点を示している。接合資料については基本的に遺物番号の小さいものの座標を示しているが、出土状況などから接合資料内の主体的な遺物の座標値を採用したのものがある。
8. 報告書の刊行にあたっては、鈴木裕篤・高尾好之・山本恵一・池谷信之・小崎 晋・原田雄紀の各氏に助言と協力を得ている。
9. 本書に係わる発掘調査の記録および出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係（沼津市文化財センター 〒410-0873 沼津市大諏訪 46-1 TEL 055-952-0844）で保管している。

凡 例

石材略語

岩 石 名	岩 石 英 名	略語	ドイツ	Dacite	Da	赤玉石	Red Jasper	RJa
黒曜石	Obsidian	Ob	安山岩	Andesite	An	黄玉石	Yellow Jasper	YJa
ガラス質黒色安山岩	Glassy Black Andesite	GBA	玄武岩	Basalt	Ba	石英	Quartz	Qt
チャート	Chert	Ch	石英閃緑岩	Quartz Drite	QD	水晶	Rock Crystal	RC
赤色チャート	Red Chert	RCh	凝灰岩	Tuff	Tu	メノウ	Agate	Ag
頁岩	Shale	Sh	緑色凝灰岩	Green Tuff	GT	玉髓	Chalcedony	Cha
珪質頁岩	Siliceous Shale	SSH	粘板岩	Slate	Sl	ヒスイ	Jedote	Je
ホルンフェルス	Hornfels	Hor	泥岩	Mudstone	Mu	碧玉	Jasper	Ja
F.ホルンフェルス	F.Hornfels	F.H	砂岩	Sand Stone	SS	滑石	Tak	Ta
流紋岩	Rhyolite	Rhy	礫岩	Conglomerate	Co	蛇紋岩	Serpentine	Se

黒曜石産地略語

黒 曜 石 産 地 名	略号	和 田 土 屋 橋 南	WOTM	豊 科 沖 山	TSY	鶴 根 上 多 別	HNKT
和 田 フヨウライト	WDHY	和 田 古 峠	WDHT	豊 科 双 子 山	TSHG	鶴 根 芦 ノ 湯	HNAY
和 田 鷹 山	WDTY	和 田 高 松 沢	WOTM	天 城 和 神	AGKT	神 津 島 志 願 島	KZOB
和 田 小 深 沢	WDKB	和 田 ブ ドウ 沢	WOBQ	鶴 根 畑 宮	HNHJ	神 津 島 砂 糠 崎	KZSN
和 田 土 屋 橋 北	WDTK	和 田 牧 ヶ 沢	WOMS	鶴 根 観 音 堂	HNKJ	神 津 島 砂 糠 崎 X	KZSX
和 田 土 屋 橋 西	WDTN	諏 訪 星 ヶ 台	SWHD	鶴 根 栗 石 橋	HNKI	高 原 山 甘 湯 沢	THAY

礫群一覧表中の略号



目次

例言

凡例

第I章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法と経過	1
第3節 整理事業の経過	2
第II章 遺跡の環境	4
第1節 位置と地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3節 遺跡の層位	9
第III章 調査の結果	12
第1節 旧石器時代の遺構と遺物	12
第2節 縄文時代の遺構と遺物	19
第IV章 蛍光X線分析法による拓南遺跡出土黒曜石の原産地推定	28
第V章 調査の成果	31
遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 周辺遺跡分布図	5
第3図 拓南遺跡周辺図	7
第4図 グリッド配置図	10
第5図 土層断面図	11
第6図 休場層石器分布図	13
第7図 第1号・第2号ブロック実測図	14
第8図 休場層出土石器実測図(1)	15
第9図 休場層出土石器実測図(2)	17
第10図 休場層出土石器実測図(3)	18
第11図 縄文時代全体図	19
第12図 縄文土器分布図	20
第13図 縄文石器分布図	21
第14図 SX1・SX2・SX3実測図	22
第15図 縄文土器拓影図(1)	23
第16図 縄文土器拓影図(2)	24
第17図 縄文石器実測図(1)	24
第18図 縄文石器実測図(2)	26
第19図 縄文石器実測図(3)	27
第20図 黒曜石原産地判別図(1)	29
第21図 黒曜石原産地判別図(2)	29

挿表目次

第1表	黒曜石原産地推定結果	30
第2表	旧石器時代休場層石器一覧表	33
第3表	旧石器時代休場層礫一覧表	33
第4表	縄文時代土器一覧表(1)	33
第5表	縄文時代土器一覧表(2)	34
第6表	縄文時代石器一覧表(1)	34
第7表	縄文時代石器一覧表(2)	34
第8表	縄文時代礫一覧表(1)	34
第9表	縄文時代礫一覧表(2)	35
第10表	縄文時代礫一覧表(3)	35
第11表	縄文時代礫一覧表(4)	36
第12表	縄文時代礫一覧表(5)	36

写真図版目次

P.L. 1	愛鷹山麓(南より)	愛鷹山南東麓(南より)
P.L. 2	拓南遺跡(西より)	拓南遺跡(東より)
P.L. 3	愛鷹ローム標準土層	
P.L. 4	休場層第1号・第2号ブロック(東より)	休場層第1号ブロック(南より)
P.L. 5	新期SC層～FB層遺構検出状況(東より)	SX1 検出状況(南より)
P.L. 6	SX1 半載状況(南より)	SX1 完掘状況(南より)
P.L. 7	SX2 完掘状況(西より)	SX3 検出状況(東より)
P.L. 8	SX3 半載状況(東より)	SX3 完掘状況(東より)
P.L. 9	SX1・SX2・SX3 完掘状況(南より)	新期SC層～FB層遺物出土状況(東より)
P.L. 10	新期SC層～FB層遺物出土状況(北より)	新期SC層～FB層遺物出土状況(南より)
P.L. 11	新期SC層～FB層遺物出土状況(東より)	新期SC層～FB層遺物出土状況(東より)
P.L. 12	休場層出土石器(ナイフ・RF・石核)	休場層出土石器(石核)
P.L. 13	休場層出土石器(接合資料)	第1群a類土器・b類土器
P.L. 14	第2群a類土器・b類土器	第2群b類土器
P.L. 15	縄文時代遺構外出土石器(RF・UF)	縄文時代遺構外出土石器(磨石・礫斧)
P.L. 16	縄文時代遺構外出土石器(石皿)	

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

拓南遺跡は平成19年11月28日付けで提出された埋蔵文化財分布調査指導申請書に基づき、駐車場造成工事に伴って平成20年1月21日から同年2月8日に実施した分布調査により確認された遺跡である。沼津市教育委員会が実施した分布調査の結果、駐車場予定地内に旧石器時代から縄文時代に至る埋蔵文化財が存在することが判明し、事業者である新日本設計株式会社に通知した。また、遺跡の名称については静岡県埋蔵文化財保護事務に関する規則に基づいて静岡県教育委員会と協議し、平成21年6月4日付けで沼津市足高尾上（拓南）に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地名拓南遺跡（周知面積約11,000㎡）として新規登録した（第2図・第3図）。

同社からは、平成20年7月30日付けで埋蔵文化財の発掘調査についての実施依頼申請が提出され、平成21年3月23日付けで埋蔵文化財発掘調査に関わる協定書を締結した。その後、平成21年4月10日付けで埋蔵文化財発掘の届出書が提出され、平成21年4月20日付けで埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結した。なお、発掘調査報告書作成のための整理事業については、平成22年6月1日付けで埋蔵文化財発掘調査（整理事業）の委託契約を締結し、平成22年度受託事業として実施した。

第2節 発掘調査の方法と経過

現地発掘調査は平成21年4月20日から平成21年7月31日まで実施した。

調査の方法は、沼津市が導入している遺構・遺物データベースである遺跡管理システムに基づく調査を行うため、調査対象地を網羅するように南西角を原点（000-000）とし、東方向にX軸、北方向にY軸となる10m方眼の座標を設定し、XY交点に測量の基準となる方眼杭を設置した。北方向は真北である。つまり原点から東へ90m、北へ80m地点の方眼杭は009-008（9-8）と表示されることとなる。また、10m方眼によって区画された大グリッドの名称は、当該グリッドの南西角に位置する交点の名称を使用している。（第4図）

現地調査は、以下の経過で実施した。

4月20日～5月1日 発掘調査の打合せ。周辺の安全を確認する。調査機材を搬入し、重機により第1層表土から第2層新期スコリア層上面まで除去する。

5月7日・5月8日 ユニットハウス・仮設トイレを搬入し、調査区南西側に設置する。

5月11日～5月15日 調査区を精査して遺構検出を行った後、新期スコリア層（遺物包含層）の人力掘削を開始する。また、調査区内に試験坑を設定して休場層まで人力掘削し、土層堆積状況と遺物包含層の把握に努める。排土置き場にしがらを設置して養生する。

5月18日～5月22日 新期スコリア層を掘削中にSX1～SX3を検出した。平面プランを確認して検出状況の写真を撮影する。遺構の存在を想定して面的に新期スコリア層（遺物包含層）を精査する。出土遺物は個別の状況写真を撮影し、位置を記録して取り上げる。

5月25日～5月29日 新期スコリア層を精査したが、新たな遺構は確認できなかった。そこで、SX1～SX3を半截して遺構の断面や土層の堆積状況を調査し、同層での遺構検出作業を終了した。

次に、第3層栗色土層から第5層休場層までの包含層調査に移行した。まず、包含層の概要を把握するために調査区北側に試掘坑を設定し、第3層栗色土層から第5層休場層まで人力掘削を行った。その結果、栗色土層から第4層富士黒土層にかけて遺物が分布していることが判明した。そこで、栗色土層（遺物包含層）から人力掘削を開始し、富士黒土層まで順次掘り下げていくことにした。

6月1日～6月5日 栗色土層に続き、富士黒土層（遺物包含層）の人力掘削を開始する。検出した遺構の写真撮影を行うとともに出土遺物と土層の実測を行う。検出した遺構を調査する。

6月8日～6月12日 富士黒土層の人力掘削を継続する。遺物出土状況・遺構検出状況の写真撮影と出土遺物の実測と取り上げを行う。

6月15日～6月19日 富士黒土層の人力掘削を終了し、空中写真撮影を実施する。その後、試掘坑を第0黒色帯まで人力掘削する。排土置場の養生を撤去する。器材搬出、ユニットハウス・仮設トイレ・埋め戻し作業を行う。現地発掘調査を終了する。

第3節 整理事業の経過

整理事業は平成22年度埋蔵文化財発掘調査受託事業として、平成22年6月1日付で事業者である新日本設計株式会社（代表取締役 野田泰秀）と沼津市（沼津市長 栗原裕康）において拓南遺跡埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、実施した。

出土遺物は、文化財センターで洗浄・注記作業を実施し、出土地点・種類別に仮収納した。次に、分類・接合・復元を行いながら主要遺物を抽出し、実測図を作成した。トレースはIllustrator®を利用したデジタルトレースを行った。これらの図面は、InDesign®を用いて遺構や包含層別に編集した。さらに、接合・復元した遺物について写真撮影を行い、現地調査時の記録写真とあわせて写真図版を作成した。

なお、旧石器時代と縄文時代の黒曜石製石器類については、石材の原産地を特定するために、沼津市が平成17年度に導入した島津製作所製エネルギー分散型蛍光X線分析装置（EDX-900HS）を用いて分析し、その結果を第IV章に記載した。この他、石器の一部は実測図作成作業の迅速化を図るため、三次元レーザースキャニング画像に基づいたデジタル実測方法を選定し、物体表面の構造線の自動抽出システムを特許登録する株式会社ラングに石器実測業務委託として発注した。

検出遺構については、現地調査時に記録された測量データをもとに、遺跡管理システム上で編集作業を行った。これに、整理作業で得られた遺物のデータを追加して遺構図版を作成した。この図面は高精細のプリンターで出力し、印刷用版下図面として使用した。

以上の作業と並行して、調査日誌等の記録を基本資料として報告書原稿の執筆を行った。報告書の印刷は、市担当課である総務課に物品調達依頼書兼契約締結伺書を提出して見積もり合わせを実施し、最低見積もり業者に原稿を入校した。校正は2校まで行い、3月10日に納品した。3月30日に報告書及び実績報告書を提出し、全事業を完了した。なお、事業経費944,420円のうち840,000円は委託者である新日本設計株式会社が委託料として負担した。



第1図 遺跡位置図 (1/100,000)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 位置と地理的環境

発掘調査の対象となった拓南遺跡は、東名高速道路沼津インターチェンジの北北西に約2Km、標高約212mの沼津市足高字尾上496-1他にあり、愛鷹山から南東方向に延びる丘陵に立地する。この丘陵の西側には松沢川、東側には芹沢川が流れ、比高差のある谷を作り出している(第3図)。

拓南遺跡のある愛鷹火山は、箱根火山とほぼ同時期に活動した火山である。旧期の活動は約40万年前に凝灰角礫岩を生成して始まり、安山岩溶岩を噴出しながら成層火山へと成長した。その後、約25万年前まで火山灰を噴出しているが、約17万年前の中期の活動で山体の一部が崩落し、裾野部に扇状地を形成している。新期の活動では、南東部に開口する馬蹄形カルデラから溶岩が流下し、南東部に扇状の丘陵を形成した。そして、約10万年前には杵越岳溶岩と小規模な火砕流を噴出して活動を休止したとされる(由井1989)。

愛鷹山南麓には、約8万年前に始まる古富士火山の噴火活動により20mを超えるローム層が堆積しており、火山灰層序学的区分に基づいて堆積順に下部ローム層・中部ローム層・上部ローム層に区分されている(愛鷹ローム団研グループ1969)。この内、後期旧石器時代の遺物が発見されるのは古富士火山後半の活動によって堆積した上部ローム層であり、激しい噴火で短時間に堆積したスコリア層と、土壌化の進んだ腐植質土壌とされている黒色帯が互層となっている。年代的には約3万数千年前を上限とし、南関東地域の立川ロームに対応するものと考えられている。

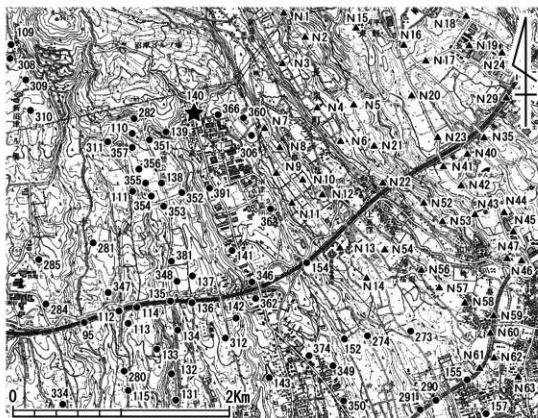
第2節 歴史的環境

愛鷹山麓は昭和初期に江藤千鶴・長田実らにより清水柳遺跡、木戸上遺跡、柏産遺跡などが考古学界に紹介され、注目されてきた地域である。昭和30年代に入ると東海道新幹線、東名高速道路、農地構造改善、土地区画整理等に伴う発掘調査が行われ、旧石器時代から歴史時代に至る遺跡が分布していることが明らかになってきた。さらに、第二東海自動車道建設に伴う発掘調査では、富士市域から裾野市域に至る広範囲に連続し遺跡が営まれていたことが明らかとなった。

【旧石器時代】旧石器時代の石器群は、約3万2千年前の第Ⅶ黒色帯から約1万4千年前の休場層まで約12枚の土層から石器群が出土し、「東海地方の地域編年」(高尾2006)等により5期に区分されている。なお、近年は第1期に先行する石器群として、富士川系ホルンフェルス製の石核あるいは礫器に和峠産黒曜石剥片や柏峠産黒曜石を用いた縦長剥片素材の石器類が報告されている。出土層位は上部ローム最下層の第Ⅳスコリア層から第Ⅶ黒色帯である。主な遺跡として元野遺跡、秋葉林遺跡、的場遺跡がある。

第1期は台形様石器を主体として局部磨製石斧を組成する石器群である。出土層位は第Ⅶ黒色帯から第Ⅳ黒色帯である。環状ブロックを検出した土手上遺跡(d-e区-2)第Ⅴ黒色帯が代表的な遺跡である。

第2期は二側縁加工のナイフ形石器が出現して発展する石器群である。出土層位は第Ⅲスコリア帯黒色帯2から第Ⅱ黒色帯である。出現期の遺跡として葛原沢第Ⅳ遺跡第Ⅲスコリア帯黒色帯2があり、発展期の遺跡として中見代第1遺跡第Ⅲ黒色帯等がある。第Ⅲ黒色帯では、潤ヶ沢遺跡と鎌



【沼津市】

- 95 八兵衛屋敷
109 休場
110 葛原沢
111 西洞
112 尾上皿橋
113 大曲
114 尾上皿橋
115 薬地鼻北
131 東大平
132 木戸上
133 桜公園
134 神馬土手
135 北神馬土手
136 二本松
137 桶出
138 尾上広合
139 祐南西
140 祐南
141 尾上第1
142 尾上馬牧土手
143 上松沢平
152 丸尾
154 清水柳
155 柏葉尾
273 柏窪
274 丸尾第Ⅲ

- 280 薬地鼻北
281 八兵衛洞
282 葛原沢第Ⅱ
285 西大曲第Ⅱ
290 子ノ神
306 尾上イラウネ
308 休場南
309 休場下
310 三角
311 葛原沢第Ⅲ
312 橋土手
334 洞林
346 土手頭
351 土手上
352 ニツ洞
353 広合南
354 中見代第Ⅰ
355 中見代第Ⅱ
356 中見代第Ⅲ
357 葛原沢第Ⅳ
360 尾上イラウネ北
362 土手頭南
363 清水柳北
366 祐南東
374 虎杖原1号墳
381 桶出北
391 尾上第2

【長泉町】

- N1 東船尾上
N2 東船尾
N3 西船尾A
N4 西船尾B
N5 東船尾A
N6 向田A
N7 尾上イラウネ
N8 尾上イラウネB
N9 中尾
N10 イラウネ
N11 野合
N12 ハサマ
N13 中釜
N14 柏窪B
N15 八分平
N16 八分平観音
N17 富士石
N18 東野
N19 八分平B
N20 迫平A
N21 東船尾B
N22 向田B
N23 迫平B

- N24 八分平D
N25 梅ノ木平
N29 大峰A
N35 間渡
N41 中見代
N42 木戸
N43 茶木畑
N44 上野E
N45 上野A
N46 長久保城
N47 上野B
N52 山岸上B
N53 山岸A
N54 桜畑上
N56 桜畑下
N57 八反田後
N58 八反田
N59 西園時
N60 平畦
N61 陸馬上B
N62 陸馬上A
N63 池田

『沼津市埋蔵文化財分布地図』『静岡県文化財地図Ⅰ—静岡市以東—』より作成

第2図 周辺遺跡分布図 (1:35,000)

沢遺跡で大形の土坑群が検出されている。

第3期は尖頭状石器・角錐状石器・円形挿器を組成する石器群である。出土層位はニセローム層直上から第0黒色帯である。代表的な遺跡として子ノ神遺跡第0黒色帯などがある。重要な遺構は清水柳北遺跡で石囲炉を検出している。第1黒色帯を中心に礫群が発達する時期である。

第4期は尖頭器が出現し、二側縁加工のナイフ形石器の組成変化に特徴がある石器群である。出土層位は休場層である。代表的な遺跡として広合遺跡の他、国府系ナイフ形石器を出土した二ッ洞遺跡がある。

第5期の遺跡は細石器を主体とする石器群である。出土層位は休場層の上層を中心としている。国指定史跡休場遺跡が有名である。

【縄文時代】

草創期は清水柳北遺跡から絡条体圧痕文等の土器と石槍・有舌尖頭器・石鏃等の狩猟具、動物の解体に関わる挿器・削器、加工具の礫器が出土している。竪穴住居跡は葛原沢第IV遺跡で調査され、草創期後半の重要な遺構である。また、埋没谷の調査では、絡条体圧痕文を有する独自の土器が出土した。

早期は押型文土器の竪穴住居跡が中見代第III遺跡で1棟、尾上イラウネ遺跡で8棟、清水柳北遺跡第1次調査で2棟、大谷津遺跡で1棟検出されている。これに続く鶴ヶ島台式～茅山上層式の竪穴住居跡は、尾上イラウネ遺跡で6棟、清水柳北遺跡で16棟検出された。この他、元野遺跡ではクリの貯蔵穴が発見された。類似する土坑は尾上イラウネ遺跡や清水柳北遺跡で数多く検出されている。

早期の集落は前期初頭まで継続するものが多い。清水柳北遺跡では木鳥式の竪穴住居跡が39棟、平沼吹上遺跡では7棟検出されている。これ以降の遺跡は減少するが、諸磯b式期には一時的に土器と石器が残る包含層遺跡が増加する。

中期初頭の五領ヶ台式以降に遺跡数は増加する。竪穴住居跡は井戸尻式期が広合遺跡で3棟、二ッ洞遺跡で2棟検出される。これに続く、加曾利E式期の柄鏡形敷石住居跡は、大谷津遺跡で検出されている。

後期以降縄文時代の集落は激減する。後期前葉までの遺跡が多く、晩期の土器は少ない。

【弥生時代】

前期は葱川遺跡で榎王式土器が出土しており、伊勢湾地方から搬入した条痕文土器とされる。

中期の中葉から後続する時期では、二ッ洞遺跡で鴨ヶ池式の壺型土器が出土している。

後期は、標高100m～200mの地点に高地性集落が分布している。竪穴住居跡が集中する植出遺跡、環壕で区画された尾上II橋遺跡、方形周溝墓が群をなす二本松遺跡などがある。後期後葉～古墳時代初頭にかけては、墳丘墓が出現する。中見代第1遺跡では大小の墳丘墓、尾上III橋西遺跡からは4基の墳丘墓が検出された。第1号墓は中央の主体部が二重の掘り方を持ち、土製勾玉が出土している。植出遺跡では3基の方形周溝墓が検出され、ガラス勾玉とガラス小玉が出土した。



第3図 拓南遺跡周辺図 (1:5,000)

【古墳・奈良時代】

最初に築かれる古墳は前方後方墳の辻畑古墳である。全長約 62 m、後方部幅約 35 m、前方部幅約 24 m、墳丘盛土高約 4 m の規模である。主体部は木棺直葬で銅鏡 1～2 面、槍 1 点、鉄鏃 10 点以上、ヤリ鉋 1 点等が出土した。土師器の特徴から古墳時代前期初頭の 3 世紀代の古墳の可能性が高いとされる。

後期前半の前方後円墳は、円筒埴輪列を有する長塚古墳・子ノ神古墳の二基が築かれている。後半になると石川古墳群、井出古墳群などの群集墳が分布する。ここからは、装飾付太刀が出土しており、被葬者と支配者層の関係を示す貴重な資料となっている。

清水柳北遺跡では 8 世紀初頭の上円下方墳が検出されている。方形の基壇の上に築かれた円丘の中央には火葬骨を納めた 1 m あまりの大形石櫃が安置されていたとされる。

前期の集落は、八兵衛屋敷遺跡、八兵衛洞遺跡、築地鼻北遺跡、大塚遺跡が知られる。これらの集落は弥生時代後期後半から古墳時代前期に継続するものが多く、在地性の強い土器が用いられる。

中期の集落は尾崎遺跡で 7 軒検出している。平面プランは方形あるいは長方形で土師器の壺・甕・高杯・鉢などが出土している。これらの集落は一般的なもので、前方後方墳や前方後円墳などの被葬者を推定しうる首長居館は確認されていない。

【奈良・平安時代】

平安時代の遺構として経筒がある。千鳥道経塚は銅鑄製経筒の蓋に仁安 3 年（1168）の紀年銘と大檀主・平助宗や勸進僧・覚蘭、大工・藤原国行等の人名が陽刻される。経筒外容器として尾張の猿投窯や常滑窯産の陶器を使用し、中国製の白磁合子出土している。

三明寺経塚は銅板製経筒に建久 7 年（1196）の紀年銘の他、藤原貞宗、源守包、伴宗長、紀家重の施主名や女施主として藤原、橘、源の氏名が陰刻されており、墨書されている僧忠円によって勸進され、賛同した人々が夫婦で写経し奉納したとみられる経塚である。

【中世】

中世おける沼津は、駿河・伊豆・相模及び甲斐の国境に位置することから、政治的・軍事的に重要な地域であった。特に戦国期には北条・武田・今川といった戦国大名が割拠して軍事的な拠点が構築されている。中でも愛鷹山麓の裾部を通る根方街道には、興国寺城や東熊堂砦などの城が構築され、街道の要所に在り土豪が屋敷を構えていたとされる。特に興国寺城跡では発掘調査により伝天守台跡、伝船着き場跡、本丸・二の丸間の掘や土橋、本丸虎口が明らかとなり、二の丸ではそれらに先行する三日月堀も確認されている。遺構は東西方向の掘・南北方向の溝とビットで区画された城館跡とされ、16 世紀前半の片口や播鉢等が出土している。

第3節 遺跡の層位

分布調査では、試掘坑を約2mの深さに掘削して、第5層休場層を確認した。ただし、TP3は第1層表土から第7層第Iスコリア層まで削平を受けていたので、第8層第I黒色帯から第12層第III黒色帯まで調査した。なお、駐車場造成工事に先立つ本調査では、工事掘削が及ぶ範囲を休場層まで調査した(第4図、第5図)。

以下、分布調査及び本調査で観察した第1層～第13層の特徴について概略を述べる。

第1層 表土 現在の耕作土である。層厚は20cm前後である。

第2層 新期スコリア層(新SC) 10YR3/3 暗褐色を呈する。スコリアやバミスを10%含む。本層に含まれるカワゴ平バミスはBP2,830±120とBP3,250±70とされる。層厚は10cmから30cmである。

第3層 栗色土層(KU) 7.5YR3/2 黒褐色を呈する。スコリアやバミスを2%含む。黄褐色のローム層に類似するが、休場ローム層より明度が暗い。粒子も粗く、粘性に乏しい。縄文時代前期から中期の包含層である。層厚は20cmから80cmである。

第4層 富士黒土層(FB) 7.5YR2/1 黒色を呈する。スコリアやバミスを1%含む。縄文時代早期の包含層である。層厚は20cmから50cmである。

漸移層(ZN) 7.5YR3/2 黒褐色を呈する。層厚は5cm前後である。富士黒土層は漸移層を挟んで休場層に移行する。

第5層 休場層(YL) 10YR3/4 暗褐色を呈する。層厚は20cmから50cmである。休場層は細分が試みられているが、本遺跡では分層できなかった。

第6層 第0黒色帯(BB0)「休場層下部黒色帯(YLLB)」と呼ばれていたが「BB0」という名称に変更している。黒褐色を呈する。赤褐色・燈色のスコリアを比較的多く含む。

第7層 第Iスコリア層(SC I) 燈色のスコリア層である。層厚は15cmである。ドライカレー状の堅いスコリアで、粒径の異なるスコリアが重なっている。

第8層 第I黒色帯(BB I) 層厚は30cmである。下半部では比較的黒味が強くスコリアが少ないのに対して、上半部では風化の進んだ細かいスコリアが多く含まれる。

第9層 ニセローム層(NL) 15cmから20cmの層厚をもつ。色調は黄褐色を呈し、離れるとローム層のようにみえるが、スコリアと火山ガラスからなる層である。この層中には始良・丹沢バミス(AT)が含まれる。ニセローム層上半部は径数mm以下の比較的細かい風化の進んだスコリアが主体をなし、下半は火山ガラスが主体となる。

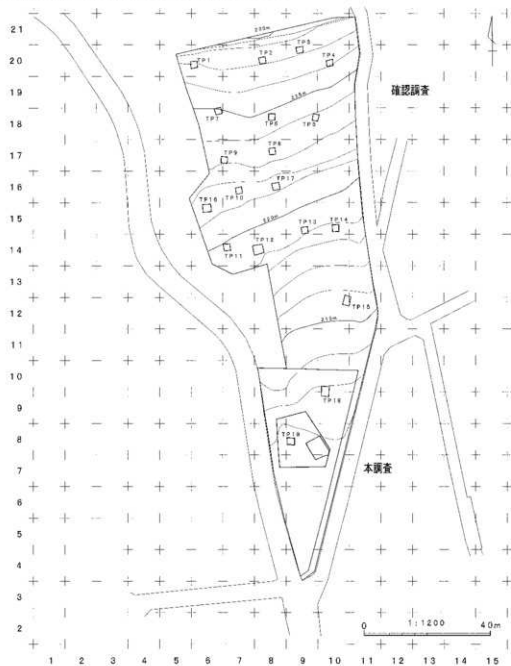
第10層 第II黒色帯(BB II) 20cm～23cmの層厚があるが、下部には径10mm～5mmの比較的大粒のスコリアが多く含まれる。

第11層 第IIスコリア層(SC II) ブロック状の構成を示して不安定なため、明瞭な区分は困難である。

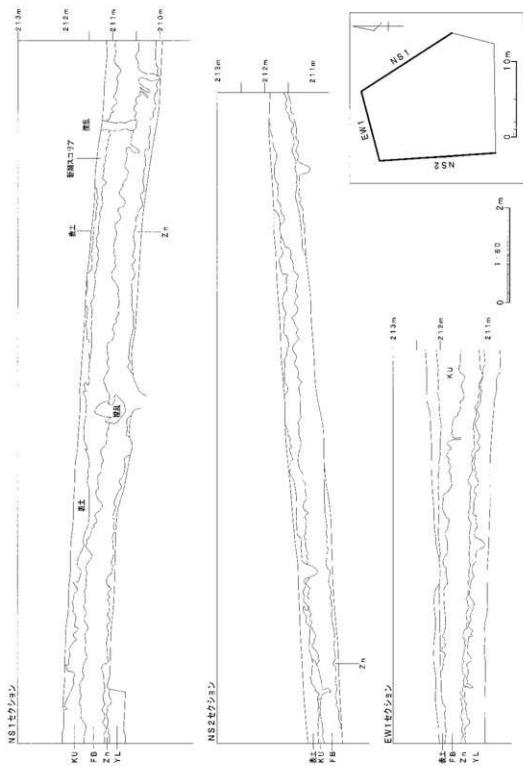
第12層 第III黒色帯(BB III) 層厚は約20cmで、漆黒色を呈して遠目からもよく目立つ層である。下部ではスコリアの含まれる量がやや多くなる。

第13層（SCⅢ-s1）第Ⅲスコリア帯スコリア1 粒形の揃ったスコリアが密集しており、第12層との境界は比較的明瞭である。

本調査ではNS1セクション（東壁）とNS2セクション（西壁）とEW1セクション（北壁）の土層堆積状況を観察した。基本的に土層は緩斜面に沿ってほぼ平行に堆積しているが、東西方向の土層は東側に向けて層厚が厚くなる傾向があった。



第4図 グリッド配置図



第5図 土層断面図

第三章 調査の結果

第1節 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の遺構と遺物は、松沢川と芹沢川に挟まれた尾根に分布していた。これらの礫・石器は、出土層位・水平分布・垂直分布を検討し、休場層を生活面とする文化層として認識した。

(1) 休場層の遺構と遺物の分布状況 (第6図)

休場層の遺構と遺物は、調査区北側を中心に礫・石器が分布していた。石器は調査区北側でブロックを形成していたが、礫は単独出土であった。

①遺構

休場層からは、単独礫1点と2箇所のブロックが検出された。

a. ブロック

休場層検出の遺物は、2箇所のブロックから検出された33点と単独出土の3点、合計36点の石器群によって構成されている。ブロックは調査区北側に位置し、調査区外と縄文時代の包含層へ連続していた。

第1号ブロック (第7図)

調査区北側の8～9-9グリッドで確認したブロックである。南側には0.7mの距離を隔てて第2号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約4.2m、短軸約1.2mである。石器類は標高210.98m～211.27mにかけて約29cmのレベル差が生じていた。確認された石器群はナイフ形石器1点、加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・碎片19点である。

第2号ブロック (第7図)

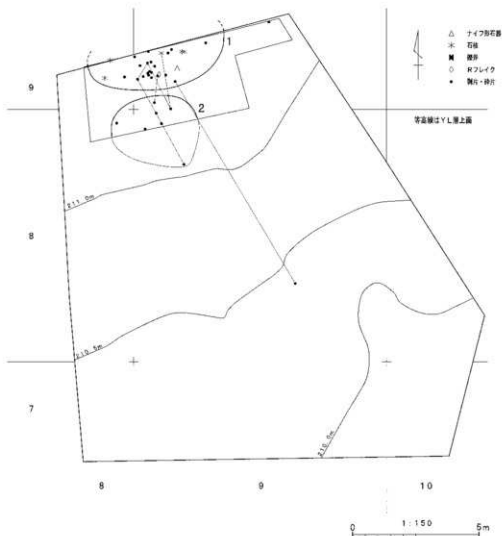
調査区北側の8～9-8～9グリッドで確認したブロックである。北側には0.7mの距離を隔てて第1号ブロックが検出されている。ブロックの規模は、長軸約2.7m、短軸約2.1mである。石器類は標高210.88m～211.21mにかけて約33cmのレベル差が生じていた。確認された石器群は剥片・碎片7点である。

②遺物

休場層検出の遺物は、調査区北側の2箇所のブロックから検出された33点と単独出土の3点、合計36点の石器群によって構成されている。石器群の内訳は、ナイフ形石器1点、加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・碎片29点であった。出土した石器類は少量で、石器群の主体となるナイフ形石器も1点出土しているにすぎない。したがって、これらの石器類が当該期の内容のすべてを示しているとは考えられないが、ここではこれらの石器類の特徴をとらえていくことにしたい。

ナイフ形石器 (第8図1)

ナイフ形石器は二側縁加工のものが1点出土した。第8図1は和田小深沢産の黒曜石を石材とする。最大長が2.9cmである。これは刃部を除く両側縁にブランティングによる調整を加え、刃部と接する部分に先端を作出したものである。ブランティングは主要剥離面側と剥離面側から行われている。刃部には使用痕と思われる微細な剥離が観察された。素材の剥離面と主要剥離面の剥離痕は、180度と90度剥離方向が異なるものであった。このようなあり方から、素材となった石刃の



第6図 休場層石器分布図

生産技術の中には、180度打面転移を行う工程と90度打面転移させている工程が存在するものと思われる。

加工痕のある剥片（第8図2）

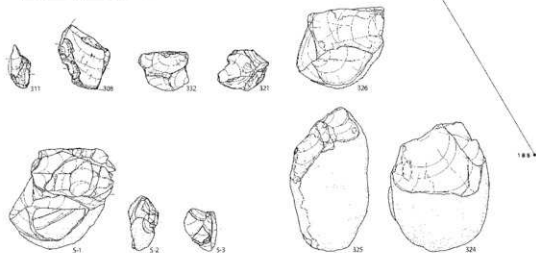
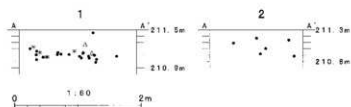
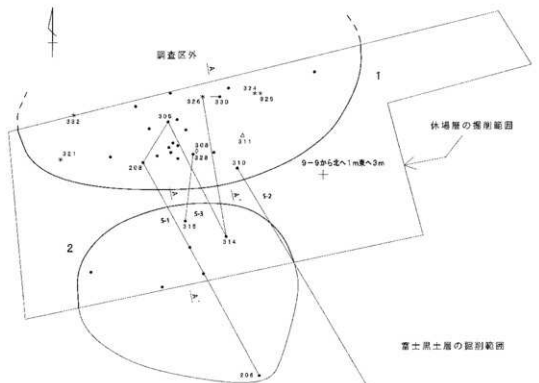
第8図2は箱根畑宿産の黒曜石を石材とする。加工痕のある剥片である。左側縁に刃部のような調整が施されたもので、剥離面側から数回の粗い加工が加えられているものである。

石核（第8図3～第9図7）

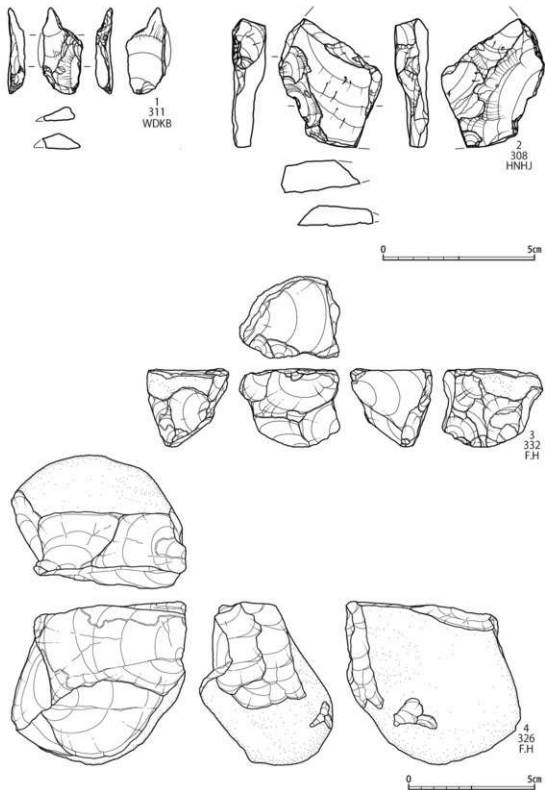
石核はa類：サイコロ状を呈する石核、b類：明確な剥片剥離作業を行わない石核に大別した。

a類 サイコロ状を呈する石核。

剥片剥離作業が二方向以上に観察されるものである。第8図3・4は富士川系ホルンフェルス



第7図 第1号・第2号ブロック実測図



第8図 休場層出土石器実測図(1)

石材とする。2面の剥離作業面をもち、剥離作業面が正面と右側面に認められる。正面の剥離作業面は、上面と側面から90度異なる剥離痕が観察できる。右側面の剥離作業面には、上設打面からの剥離作業(4)と正面の剥離作業面を打面とする剥離作業(3)の剥離痕が残る。上設打面の調整は正面と側面からの調整剥離(4)と側面からの調整剥離(3)がある。裏面に礫面を残すもの(4)や裏面から左側面に礫面を残すものがある(3)。

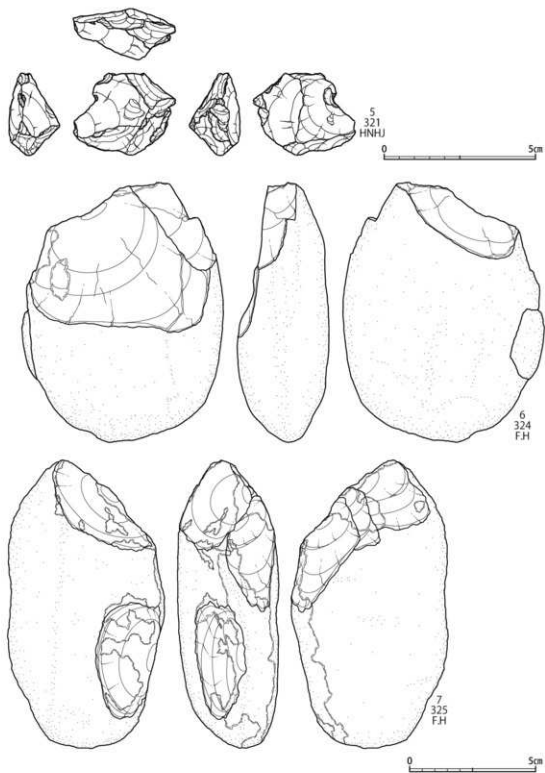
b類 礫に数回の剥離を加えた石核。

明確な剥片剥離作業が行われたものではなく、打面を形成して礫面を除去するような数回の剥離を加えたもの(6・7)2点や剥片に剥離を加えたもの(5)1点が出土した。6は富士川系ホルンフェルス製を石材とする。上面に打面が形成され、正面に2回の剥片剥離を加えたものであるが、素材礫の礫面を除去する程度の剥離で放棄されたものである。7は富士川系ホルンフェルス製を石材とする。石核素材と思われる礫に打面が形成され、3回の剥離が加えられているもので、石核というよりは素材礫に近いものである。5は箱根畑宿産黒曜石を石材とする。分厚い剥片素材の石核で、正面の剥離面を打面として裏面を剥離作業面としたものである。剥離痕の観察では、定形的な剥片を作出した痕跡は認められない。

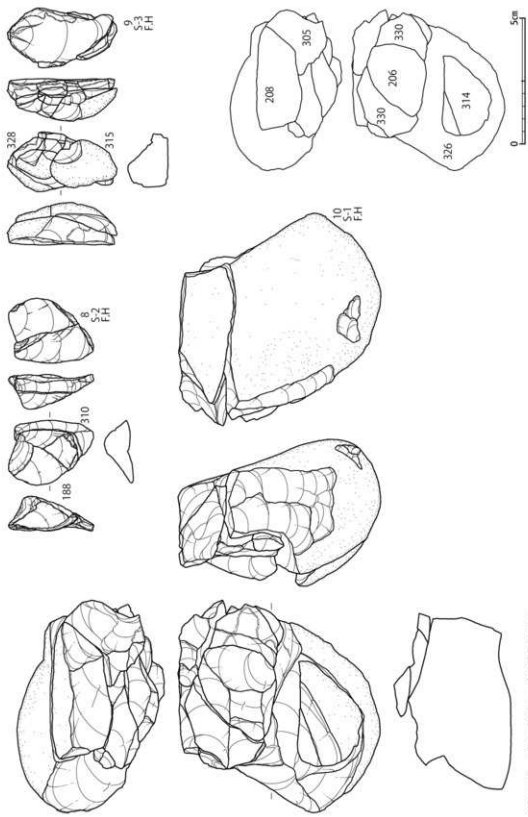
接合資料(第10図8～10)

接合資料は3点確認した。第10図10は富士川系ホルンフェルス製の石核1点(第8図4)と剥片5点の接合で、これらの接合状態が10である。接合状態は、石核に打面の調整剥片2点と正面を剥離作業面とする剥片2点と右面を打面とする剥片1点が接合している。剥片の剥離過程は、まず上設打面の調整剥離(208→305)が施される。次に、上設打面からの剥片剥離作業を行う(314→206)。さらに、右面の剥離作業面を打面として剥離作業面の調整剥離を行う(330)。剥離面の観察では、上設打面の調整剥離の後、上設打面から右面を剥離作業面とする剥片剥離作業の剥離痕が残っている。

第10図8・9は富士川系ホルンフェルス製の剥片2点の接合状態である。接合状態は、石核からの連続的な剥離を示している。剥離面の観察では、単設打面石核からの連続的な剥離が認められる。8は剥片の剥離過程が188→310である。剥離面の観察では、単設打面石核から188を剥離した後、打面調整を施して310を剥離したものである。9の接合状態は石核素材の円礫から礫面を除去する段階を示している。剥片の剥離過程は、315→328である。



第9図 休場層出土石器実測図(2)



第10图 休場層出土石器実測図(3)

第2節 縄文時代の遺構と遺物

本遺跡で確認された縄文時代の遺構は、性格不明の遺構(SX)と遺物包含層があり、そこから出土した土器、石器、礫などの遺物がある。

(1) 縄文時代の遺構と遺物の分布状況(第11図～第13図)

検出されたSX1～SX3は、調査区内の東側に分布しており、規則的な配列は認められなかった。これらのSXは遺物を出土したものが少なく、明確な構築時期を決定できる状況にないが、出土遺物とSXの形態、覆土の類似性から縄文時代早期に構築されたものと推定している。

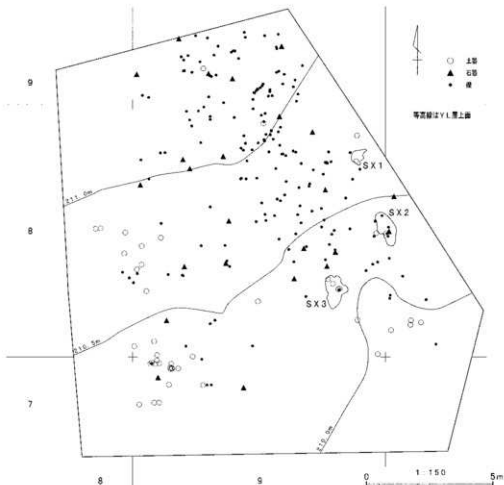
(2) 遺構

①性格不明の遺構

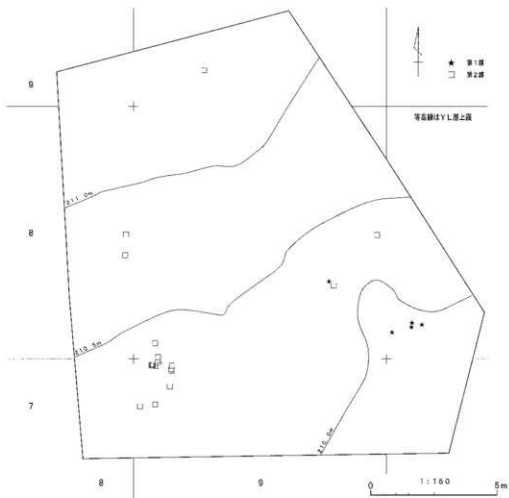
検出されたSXは3基である。これらは平面形と断面形から不正形状のものに分類した。

SX1(第14図)

調査区東側の9-8グリッドに位置する。確認面の平面形態は不正形を呈する。大きさは確認面



第11図 縄文時代全体図



第12図 縄文土器分布図

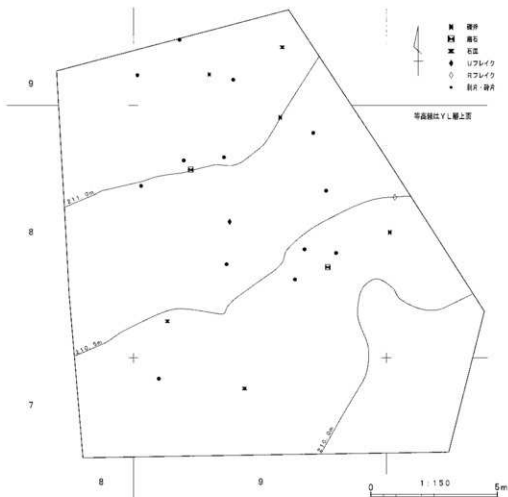
で長軸70cm×短軸50cmで、深さは確認面から50cmと深いものであった。断面形はU字状を呈しながら立ち上がる。覆土は、黒色で粘性がやや強く、しまりは弱い。粒径5mm～3mmのスコリアを1%含む。炭化物を主体として富士黒土層・栗色土層・新期スコリア層がブロック状に混じり合う。

SX2 (第14図)

調査区東側の9・10-8グリッドに位置する。確認面の平面形態は不正形を呈する。大きさは確認面で長軸140cm×短軸50cmで、深さは確認面から50cmと深いものであった。断面形はV字状を呈しながら立ち上がる。覆土は、黒色から黒褐色で粘性が強く、しまりがある。粒径5mm～1mmのスコリアを2%含む。富士黒土層に類似する。

SX3 (第14図)

調査区東側の9-8グリッドに位置する。確認面の平面形態は不正形を呈する。大きさは確認面で長軸130cm×短軸90cmで、深さは確認面から50cmと深いものであった。断面形は鍋底状



第13図 縄文石器分布図

を呈しながら立ち上がる。覆土は、黒褐色で粘性が強く、しまりがややある。粒径5mm～1mmのスコリアを1%と粒径5mm～3mmの炭化物を微量含む。富士黒土層に類似する。

(3) 遺物

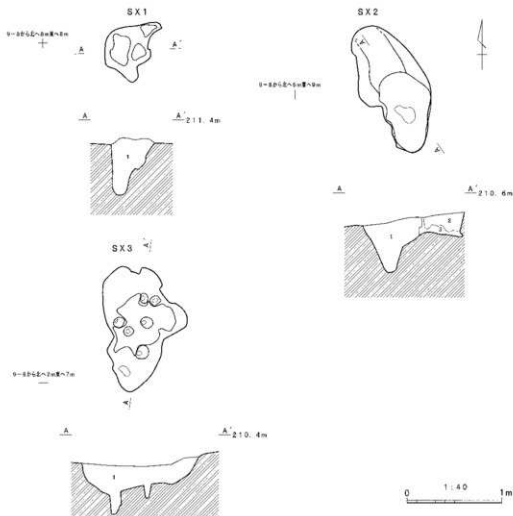
縄文時代の遺物包含層は第2層新期スコリア層～第4層富士黒土層に形成されていた。遺物は縄文時代早期前葉から縄文時代早期後葉に属する土器55点、石器20点、礫179点が出土しており、特に早期前葉の押型文系と早期後葉の条痕文系の土器が多かった。

①縄文土器

1群 押型文系土器

a類 山形文を施す土器 (第14図1～5)

第15図1～2は山形押型文を異方向に帯状施文する土器である。やや外反する口縁をもち、口唇部に刺突めぐる。一山の高さ4mm、一山の長さ6mmの山形文が施される。施文部以外はナデが施されて平滑である。口縁部の内面には横位の山形文が1cmの幅で施される。これらの土器は



第14図 SX1-SX2-SX3 実測図

器壁が5mm～4mmと薄く、透明から半透明の微細な白色粒子と金色の雲母を含む。

3～5は山形押型文の縦位の帯状施文が認められる胴部の破片であり、1～2に類似する特徴をもつ。これらは樋沢式に併行する押型文である。

b類 押型文に併行する土器 (第14図6)

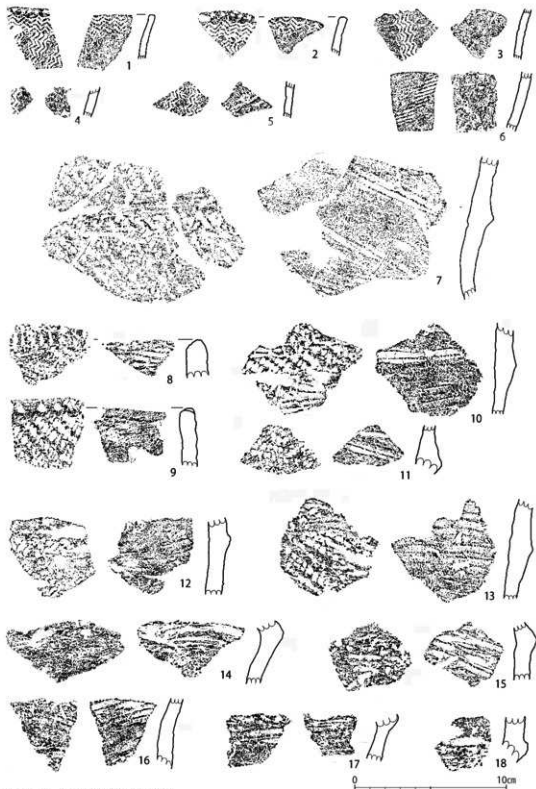
第15図6は比較的小粒の単節RLの縄文を斜方向に施文する。器壁が6mmと薄く植物繊維は含まれない。押型文に類似する胎土である。

2群 条痕文系土器

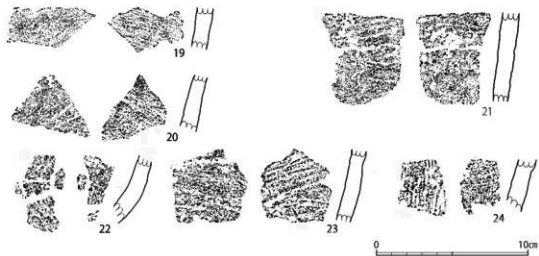
a類 低い隆帯に縄文を施文する土器 (第14図7～13)

第15図7～13は頸部に二条の低い隆帯を横方向に貼付して口縁部文様帯を構成し、比較的大粒の単節RLの縄文を施す。内面は幅3mmほどの広い条痕で整える。器壁は11mm前後と厚く、胎土には4mm～1mmのデイスイト様の灰白色粒子を含み、繊維を混入した痕跡が残る。

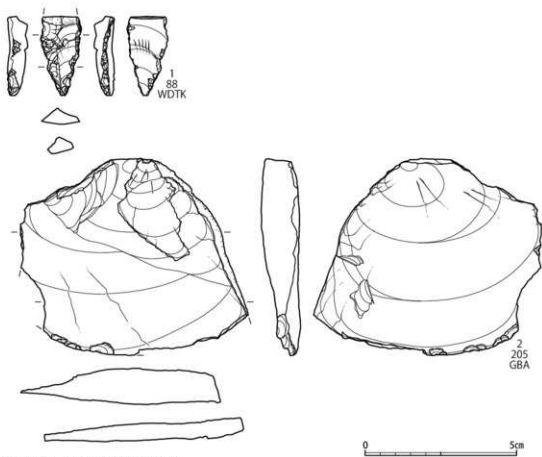
8～9は口縁部の破片で口唇部に籠状工具による刻みが施文される。8は内面に幅3mmほどの



第15図 縄文土器拓影図(1)



第 16 图 縄文土器拓影图 (2)



第 17 图 縄文石器実測图 (1)

幅広い条痕が残る。9は外面に単節のRLの縄文を施す。器壁は10～13mmと厚く、繊維を混入した痕跡が残る。

b類 低い隆帯に条痕を施す土器（第14図14～第15図22）

第15図14～第16図22は口縁部付近へ横方向に二条の隆帯を貼付け、器面の内外面を条痕で整える。器壁は11mm前後で素地に繊維を混入した痕跡が残る。

22は底部付近の破片で尖底になると思われる。23～24は胴部の破片で器面の内外面を条痕や擦痕で整える。器壁は11mm前後で素地に繊維を混入した痕跡が残る。これらの条痕文系土器は茅山上層式に比定される。

②石器

縄文時代の石器は20点出土した。このうち、定形的な石器は、礫斧3点、磨石2点、石皿3点があり、このほか加工痕のある剥片1点、使用痕のある剥片1点、剥片・砕片10点がある。これらはすべて縄文時代に属するものと思われるが、出土土器の比率に準拠すれば、おおむね縄文時代早期前葉の押型文や早期後葉の条痕文系土器群に伴う石器群と考えられよう。

加工痕のある剥片（第17図1）

1は片面に加工痕のある剥片である。器体は左右対称で中央に最大幅を有している。下端部は先鋭で断面形がD字状を呈する。素材剥片の主要剥離面側から行われる急斜度の調整で刃部を整える。石材は和田土屋橋北産の黒曜石である。

使用痕のある剥片（第17図2）

2は使用痕のある剥片である。幅広い剥片を素材として、鋭利な緑辺の一部に使用痕と考えられる細かな剥離の認められる剥片である。石材はガラス質黒色安山岩である。

磨石類（第17図3～4）

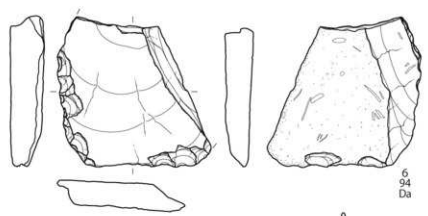
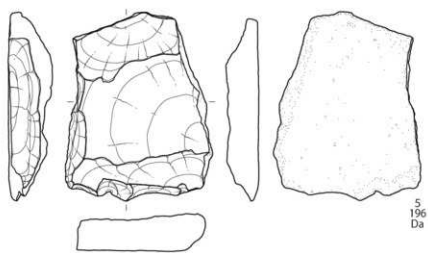
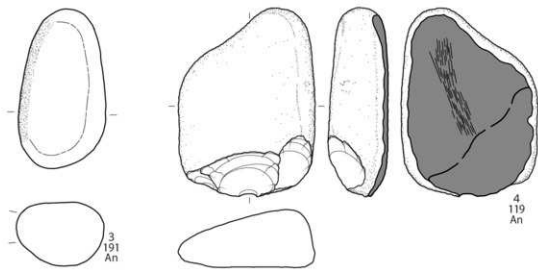
3～4は磨石類である。磨石だけでなく、敲石としての機能も併せ持つものが多いことから磨石類とした。3はいわゆる特殊磨石で円礫の稜線部に細長く磨面が残る。4は磨石+敲石で表面に磨面があり、下端部に敲打痕と衝撃剥離が観察できる。石材はいずれも安山岩製である。

礫斧（第17図5～7）

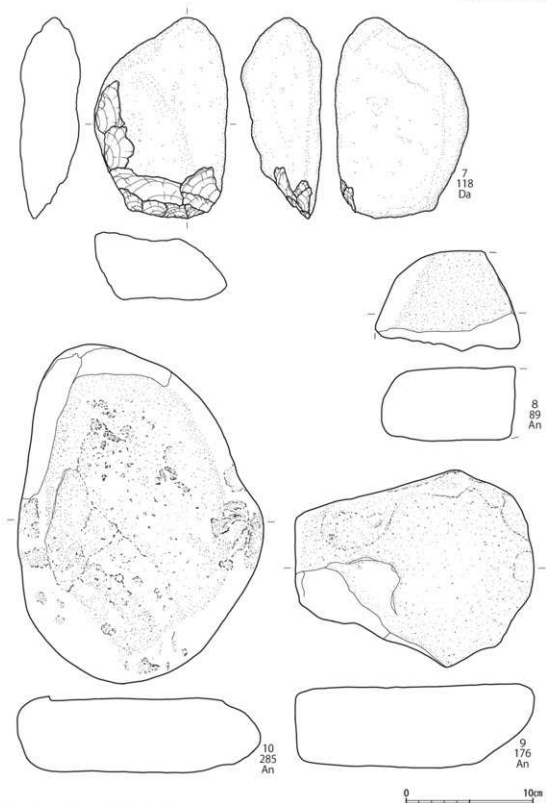
5～7は礫斧で、礫の一端に剥離を加え刃部を作出したものである。刃部は片刃のものが多い。5と6は板状礫を素材として短冊状の片刃礫器としたもので、調整は裏面の自然面を打面として大きな剥離で器体を薄く整え、素材の緑辺に自然面を打面とする小さな剥離を数回繰り返して刃部としている。7は重量のある平坦な礫の端部に片面から数回の剥離を加えて片刃の礫器としたものである。石材は全てデイサイト製である。

石皿（第18図8～9）

8～9は石皿である。いずれも無縁型で平坦面に磨面が残る。8は板状の円礫を素材として片面に磨面が観察できるが、あまり使用が進んでいない。9は板状礫の片面に磨面が観察できる石皿で、あまり使用が進んでいない。大きく破損している。石材は安山岩製である。



第18図 縄文石器実測図(2)



第19図 縄文石器実測図(3)

第IV章 蛍光X線分析法による拓南遺跡出土黒曜石の原産地推定

池谷 信之

1. はじめに

沼津市文化財センターでは、第二東名高速自動車道路関係の整理事業において取り扱う膨大な黒曜石製石器に対応することを目的として、平成17年度に島津製作所製エネルギー分散型蛍光X線分析装置 EDX-900HS を導入した。これ以降、市内の遺跡については独自に産地推定を行っている。

2. 分析対象

分析対象は拓南遺跡出土の黒曜石製石器11点である。旧石器時代・縄文時代ともに出土黒曜石のうち、分析可能なサイズのものすべてを対象とした。

3. 分析方法

a. 原産地推定法

エネルギー分散型蛍光X線分析 (EDXRF) は一次X線 (励起X線) を照射したとき、その物質に特有の波長の二次X線 (蛍光X線) が発生することを利用した方法である。その原理や具体的な手続きについては、複数の研究者による紹介があるので、ここでは重複を避ける。蛍光X線分析法の特徴として、非破壊で1点あたりの測定に要する時間が数分と短く、機器の価格を含めた測定コストが他の化学分析に比べて低い点が挙げられる。

b. 測定条件

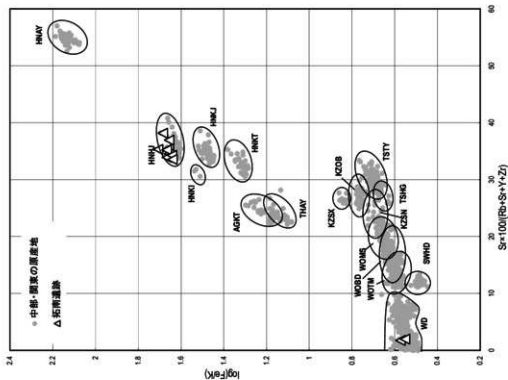
測定機器	島津製作所製蛍光X線分析装置 EDX-900HS (エネルギー分散型)		
X線管球	Rh ターゲット		
電圧	軽元素側 (～K) 側: 15kVA	重元素側 (Ti～): 50kVA	
電流	自動 (1000 μ A)	照射径	10mm
検出器	SSD 検出器	雰囲気	真空
測定時間	軽元素側 (～K) 側: 200 秒	重元素側 (Ti～): 200 秒	

c. 原産地試料

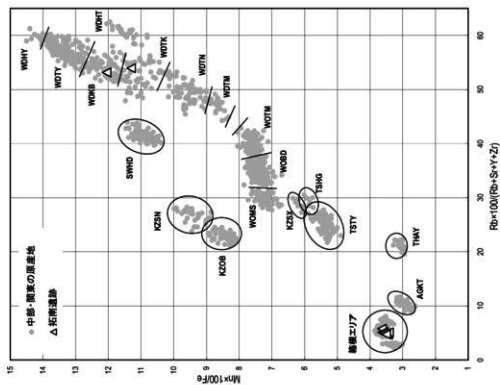
対比資料となる原産地黒曜石については、和田 (WD) エリア・和田 (WO) エリア・諏訪エリア・蓼科エリア・天城エリア・箱根エリア・神津島エリア・高原山エリアの各地点から採集した。エリア内の地点については、紙数の関係から記載を省略した。

d. 原産地推定方法

上記の測定条件のもと、まず遺跡出土石器の対比資料となる原産地黒曜石の測定を行った。その結果、珪素 (Si)・カルシウム (Ca)・カリウム (K)・チタン (Ti)・クロム (Cr)・マンガン (Mn)・鉄 (Fe)・亜鉛 (Zn)・ルビジウム (Rb)・ストロンチウム (Sr)・イットリウム (Y)・ジルコニウム (Zr)・ニオブ (Nb)・スズ (Sn) が検出された。



第21図 黒曜石原産地判別図(2)



第20図 黒曜石原産地判別図(1)

〈判別図による推定〉

測定された元素の強度にもとづいて、以下の指標を計算し、判別図を作成する。

$Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度}) \rightarrow$ 第 20 図の X 軸

$Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度} \rightarrow$ 第 20 図の Y 軸

$Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度}) \rightarrow$ 第 21 図の X 軸

$\log(Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度}) \rightarrow$ 第 21 図の Y 軸

2つの判別図上に、さらに遺跡出土黒曜石の測定結果をプロットし(△印)、その分布範囲の重なりから産地を判断する。

〈判別分析(多変量解析)による推定〉判別図法の判断を検証するために多変量解析の一手法である判別分析を行い、マハラノビス距離と帰属確率を求めている。

4. 推定結果

分析資料 1 点ごとの推定結果を第 1 表に示した。分析番号 01～06 の帰属時期は旧石器時代、分析番号 07～11 の時期は縄文時代として扱われているが、ともに 1 点を除き箱根畑産黒曜石という結果となった。

第 1 表 黒曜石原産地推定結果

分析番号	遺物名	器種	推定産地	判別図判別群	判別分析						Rb/S	Mn/Fe	Sr/S	Fe/K
					群種1	距離1	確率1	群種2	距離2	確率2				
H21(坂南遺跡-01)	211 ナイフ形石器	WOKB	WOKB	WOKB	4.62	1.00	WDTY	27.19	0.00	52.16	12.06	1.75	3.75	
H21(坂南遺跡-02)	308 加工儀者製片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	7.66	1.00	HNKI	66.23	0.00	5.11	3.63	35.48	45.38	
H21(坂南遺跡-03)	321 石核	HNHJ	HNHJ	HNHJ	6.96	1.00	HNKI	65.82	0.00	4.72	3.44	34.54	45.32	
H21(坂南遺跡-04)	312 製片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	12.04	1.00	HNKI	79.37	0.00	4.81	3.50	33.92	46.36	
H21(坂南遺跡-05)	319 砕片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	33.21	1.00	HNKI	144.74	0.00	5.13	3.42	35.32	50.93	
H21(坂南遺跡-06)	320 砕片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	20.74	1.00	HNKI	119.90	0.00	5.80	3.64	38.16	48.40	
H21(坂南遺跡-07)	88 加工儀者製片	WDTK	WDTK	WDTK	6.41	1.00	WOKS	14.03	0.00	53.94	11.31	1.99	3.57	
H21(坂南遺跡-08)	87 製片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	8.37	1.00	HNKI	80.27	0.00	5.20	3.58	35.22	46.50	
H21(坂南遺跡-09)	107 製片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	5.07	1.00	HNKI	62.00	0.00	4.83	3.53	34.29	43.89	
H21(坂南遺跡-10)	207 製片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	7.34	1.00	HNKI	57.98	0.00	4.91	3.57	33.53	43.86	
H21(坂南遺跡-11)	210 製片	HNHJ	HNHJ	HNHJ	4.34	1.00	HNKI	84.28	0.00	4.74	3.51	36.95	45.21	

第V章 調査の成果

旧石器時代

本文化層は、2箇所のブロックから検出された33点と単独出土の3点、合計36点の石器群によって構成される極めて小規模な文化層である。また、2箇所のブロックは近接して形成されており、ブロック範囲は調査範囲外まで広がると考えられる状況にあった。

石器組成はナイフ形石器を組成する文化層で、これに僅かな量の加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・砕片29点が伴う。

ナイフ形石器は中形の二側縁加工のものが1点認められたものの、量的に乏しい傾向にあった。

石材組成は、第一石材が富士川系ホルンフェルス30点(83%)、1.361.3g(98%)であり、出土点数・重量ともに比率が高い。この他、第二石材が黒曜石6点(17%)、28.6g(2%)である。

石器石材は、ナイフ形石器1点が黒曜石である。一方、石核石材は富士川系ホルンフェルス4点、黒曜石1点と富士川系ホルンフェルスが占める割合が高く、剥片も富士川系ホルンフェルス22点(419.5g)、黒曜石1点(3.4g)と富士川系ホルンフェルスが多い傾向にある。

剥片剥離技術は、接合資料の観察から石刃・縦長剥片を目的としていたと思われる。剥片の観察では、剥片剥離方向を一定方向にしたもの、対向する二方向から剥片剥離を行う180度の打面転移技術をもつもの、90度の打面転移を行うものが認められた。この他、礫素材の石核に粗い打面形成と剥片剥離を行うものが認められた。

本文化層は、第5層休場層を中心とした垂直分布が認められたもので、愛鷹ローム層の最上層から出土している。これまで休場層では多様な石器群が出土しているが、本文化層にナイフ形石器が組成されることから、ナイフ形石器石器群の中では最も新しい時期の石器群と推定される。ナイフ形石器は二側縁加工のものがあり、石刃を素材として製作されている。石核と接合資料は石刃・縦長剥片を目的としていたことが推測される。このような剥片剥離の状況から本文化層は石刃技法を技術基盤としていた可能性が高いと思われる。そして、「東海地方の地域編年」(高尾2006)に準拠すれば、本文化層は第4期の石器群として位置づけられよう。

縄文時代

本遺跡で検出された縄文時代の遺構と遺物は、性格不明の遺構3基と土器55点、石器20点、礫179点など総計254点であったが、調査区全体に遺構と遺物包含層が広がっていたことを確認することができた。ここでは、遺構と遺物について簡単にまとめておく。

検出されたSX3基は、平面形態が不整形な形状のものに分類される。その規模は、長軸70cm～140cm×短軸50cm～90cm×深さ50cmであり、調査区東側に偏在することが確かめられたが、SXに伴う遺物は少なく、所属する時期の決定を困難にしている。一方、覆土はSX1が炭化物を主体として富士黒土層～新期スコリア層がブロック状に混じり合う特徴を示し、SX2・SX3が富士黒土層に類似することから構築年代の相違が覆土の堆積に反映しているものと考えられる。出土遺物、覆土の状況からおおむね、SX2・SX3が縄文時代早期に位置づけられるものと考えられる。そして、SX1は覆土に新期スコリアを含有することから、SX2・SX3より新しい段階に構築されたものと思

われる。本遺跡で検出された性格不明の遺構は集落の構成施設ではないが、出土した土器・石器・礫から推定すると、周辺部には縄文時代早期に属する野営地が存在した可能性が高いと思われる。

本遺跡で出土した土器は、総点数 55 点であった。遺構外出土の土器は、そのほとんどが富士黒土層から栗色土層にかけて出土している。これらの土器は型式学的な特徴から縄文時代早期前葉と早期後葉に分類され、そのほか小破片のため時期不明とした 1 群を加えて 3 群に分類された。組成比は、縄文時代早期後葉がやや多い傾向にあった。

第 1 群は早期前葉の山形押型文を異方向に帯状施文する土器である。やや外反する口縁をもち、口唇部に刺突がめぐり、内面には横位の山形文が施される。器壁が薄く、透明から半透明で微細な白色粒子と雲母を含む。これらの特徴から桶沢式に併行する押型文土器と位置づけられる。

第 2 群は早期後葉の条痕文系土器である。これらは、低い隆帯に縄文を施文するものと条痕で整えるものがあり、口縁部付近に横方向に二条の隆帯を貼付け、器面の内外面に条痕が施される点や、器壁は 11mm 前後で素地に繊維を混入した痕跡が残り、デイスイト様の不透明な灰白色粒子を含む特徴から、茅山上層式に比定されるものである。

本遺跡出土の石器は総数 20 点で、剥片・破片を除いた石器は 10 点である。これらの石器は、縄文時代早期前葉と早期後葉のものが混在していることが予想されるが、各に特徴的な石器を抽出することが困難であるため、全体としての組成について概観することとする。出土石器は加工痕のある剥片 1 点、使用痕のある剥片 1 点、磨石類 2 点、石皿 3 点、礫斧 3 点である。この中では狩猟具である石鏃や工具・加工具等が欠落し、食料加工具がわずかながらも組成していることが特徴となっている。これは、本遺跡が一時的に食料加工具を用いる場所として利用されたこと示唆していると言えよう。

〈引用参考文献〉

- 愛鷹ローム団研グループ 1969 「愛鷹山麓のローム層」『第四紀研究』 8・1
- 由井将雄 1993 「愛鷹火山の地形発達史」『駿台史学』 第 87 巻
- 柴田 徹 2002 「愛鷹山麓出土石器の石料鑑定」『西洞遺跡（c・d 区）発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 第 78 集
- 鈴木敏中・伊藤恒彦他 1999 「初音ヶ原遺跡」三島市教育委員会
- 池谷信之 1998 「上手上遺跡（d・e 区-2）発掘調査報告書」沼津市文化財調査報告書 第 64 集
- 高尾好之 2006 「東海地方の地域編年」『旧石器時代の地域編年の研究』同成社
- 富樫孝志・中村雅之 2007 「向田 A 遺跡」静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第 178 集
- 池谷信之 2009 『黒曜石考古学』新泉社
- 沼津市教育委員会 2002 『沼津市史 資料編 考古』
- 原田雄紀 2009 『清水柳北遺跡（3 次）発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 第 96 集
- 世原千賀子 2009 『梅ノ木沢遺跡Ⅱ』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第 206 集
- 阿部 敬 2009 『秋葉林遺跡Ⅰ』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第 207 集
- 原田雄紀・小崎晋他 2010 『尾志遺跡（第 2 次）・清水柳北遺跡（第 2 次）発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書

第2表 旧石器時代休場層石器一覽表

図物番号	層位	種別	石質	形状	長さ	幅	重量	大形種	Y座標	Z座標			
1	301	1	YL	ナゲテ	06	W380	2.9	0.5	1.3	4.6	90.728	91.625	211.274
2	301	1	YL	無刃直刺	06	H300	4.5	0.7	3.1	13.0	91.007	91.376	211.126
3	321	1	YL	FH	06	H300	3.5	1.6	2.7	10.0	88.862	91.226	211.102
4	322	1	YL	FH	FH		3.9	3.8	2.1	43.3	86.064	91.936	211.212
5-10	326	5-1	YL	FH	FH		6.7	4.2	6.0	25.0	91.096	92.230	211.442
6	324	1	YL	FH	FH		9.7	3.3	7.3	29.4	91.917	92.250	211.069
7	325	1	YL	FH	FH		11.3	4.0	6.0	34.0	92.000	92.285	210.753
8	180	5-2	KU	骨針	FH		2.5	0.7	2.3	6.1	96.388	93.116	210.253
9	310	5-2	YL	骨針	FH		3.1	0.5	1.4	2.8	91.617	91.103	211.082
9	315	5-3	YL	骨針	FH		4.0	1.0	2.0	8.0	90.822	90.263	211.090
9	328	5-3	YL	骨針	FH		4.3	1.0	2.2	9.6	90.951	91.323	211.098
10	206	5-1	FH	骨針	FH		3.1	0.9	2.7	9.7	91.993	91.719	211.219
10	206	5-1	FH	骨針	FH		3.0	1.1	2.9	20.1	90.160	91.191	211.454
10	305	5-1	YL	骨針	FH		3.3	1.1	3.6	11.8	90.555	91.833	211.141
10	314	5-1	YL	骨針	FH		2.5	1.1	4.1	10.1	91.467	90.019	211.187
10	320	5-1	YL	骨針	FH		6.1	1.0	3.2	21.6	92.365	92.231	211.087
301	1	YL	ナゲテ	FH			3.3	0.9	1.7	4.4	80.283	91.296	211.033
302	1	YL	骨針	FH			0.4	0.5	0.4	0.2	90.568	91.428	211.138
303	1	YL	骨針	FH			5.2	1.5	4.5	40.6	90.708	91.439	211.128
304	1	YL	骨針	FH			2.2	0.9	2.1	5.3	90.259	91.125	211.116
306	1	YL	骨針	FH			1.4	0.6	1.3	3.3	90.695	91.870	211.110
307	1	YL	骨針	FH			7.2	1.9	3.4	34.0	90.836	91.707	211.111
309	1	YL	骨針	FH			0.7	0.2	0.6	0.1	91.277	91.352	211.034
312	1	YL	骨針	06	H300		2.5	1.1	2.0	3.4	90.042	92.075	211.164
313	2	YL	骨針	FH			4.1	0.6	3.4	8.9	91.107	90.431	211.138
316	2	YL	骨針	FH			2.1	0.5	3.0	3.8	90.694	90.817	210.919
318	2	YL	骨針	FH			3.2	1.0	1.0	1.6	90.457	90.219	210.883
319	2	YL	骨針	06	H300		1.1	0.5	0.9	0.5	89.332	90.455	211.056
320	1	YL	骨針	06	H300		0.9	0.1	0.9	0.1	89.645	91.279	211.005
323	1	YL	骨針	FH			5.4	1.5	5.2	50.6	91.503	92.369	211.304
327	1	YL	骨針	FH			4.8	1.8	6.0	61.6	90.586	92.298	211.202
329	1	YL	骨針	FH			3.8	2.4	2.3	15.8	90.700	91.254	210.988
331	1	YL	骨針	FH			3.0	2.4	6.0	66.5	92.827	92.627	211.028
334	1	YL	骨針	FH			2.0	1.0	1.9	5.2	90.334	93.460	210.997
335	1	YL	骨針	FH			0.9	0.1	0.5	0.1	89.597	91.330	211.083
336	1	YL	骨針	FH			0.9	0.1	0.4	0.1	90.633	91.500	211.081

第3表 旧石器時代休場層一覽表

図物番号	層位	種別	石質	形状	長さ	幅	重量	Y座標	Z座標
303	380	1	YL	骨	240.0		88.866	91.422	211.191

第4表 縄文時代土器一覽表 (1)

図物番号	器物番号	層位	種別	形状	口径	高さ	重量	Y座標	Z座標
1	441	14	GRD	甕	14	10.8	191.011	91.422	210.495
2-3	140	14	GRD	甕	14	10.8	100.059	91.270	210.443
4	139	14	GRD	甕	14	10.8	191.404	91.365	210.494
5	130	14	GRD	甕	14	10.8	100.221	91.160	210.352
6	132	14	GRD	甕	14	9.8	97.726	93.077	210.392
7	160	2a	GRD	甕	2a	9.7	91.190	79.328	210.602
7	161	2a	GRD	甕	2a	9.7	91.493	79.389	210.608
7	163	2a	GRD	甕	2a	9.7	91.150	78.960	210.589
7	165	2a	GRD	甕	2a	9.7	90.869	79.721	210.827
8	169	2a	GRD	甕	2a	9.7	90.759	78.115	210.781
9	168	2a	GRD	甕	2a	9.7	90.705	79.731	210.825
10	173	2a	GRD	甕	2a	9.8	90.550	80.619	210.936
11	205	2a	GRD	甕	2a	9.7	90.741	79.737	210.750
12	-	-	GRD	甕	2a	-	-	-	-
13	158	2a	GRD	甕	2a	9.7	92.786	78.883	210.816
14	167	2a	GRD	甕	2a	9.7	90.857	78.187	210.807
15	154	2a	GRD	甕	2a	9.8	96.465	81.080	210.709
16	153	2a	GRD	甕	2a	9.8	95.934	81.953	210.703
17	294	2a	GRD	甕	2a	9.7	90.701	79.780	210.782
18	135	2a	GRD	甕	2a	9.8	97.016	82.899	210.373
19	201	2a	GRD	甕	2a	8.8	99.167	84.194	211.360
20	171	2a	GRD	甕	2a	9.7	91.051	79.745	210.723
21	170	2a	GRD	甕	2a	9.7	90.602	79.860	210.817
21	172	2a	GRD	甕	2a	9.8	90.970	80.075	210.823
22	122	2b	GRD	甕	2b	9.8	90.511	81.405	210.784
23	146	2b	GRD	甕	2b	10.8	100.038	84.898	210.574
23	202	2b	GRD	甕	2b	8.8	89.035	84.367	211.362
24	30	2b	GRD	甕	2b	9.9	92.794	91.422	211.700
18	18	2b	GRD	甕	2b	7.16	75.080	141.446	230.888
19	19	2b	GRD	甕	2b	7.16	74.277	143.433	230.889

第5表 縄文時代土器一覽表(2)

器物番号	遺跡番号	出土遺構	種別	形状	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	X線撮影	Y線撮影	Z線撮影
20	GHD	FB	縄文土器	甕	7-16	74.155	183.902	2207.235		
21	GHD	FB	縄文土器	甕	7-16	74.955	183.668	2207.738		
22	GHD	FB	縄文土器	甕	7-16	74.224	183.292	2207.704		
26	GHD	K33	縄文土器	甕	9-8	90.347	83.055	211.669		
41	GHD	K33	縄文土器	甕	9-8	90.536	84.200	211.327		
43	GHD	FB	縄文土器	甕	9-8	91.113	81.722	211.032		
108	GHD	新文	縄文土器	甕	9-8	98.837	87.749	211.130		
131	GHD	FB	縄文土器	甕	9-8	98.899	81.459	210.687		
133	GHD	FB	縄文土器	甕	9-8	98.183	82.703	210.378		
134	GHD	FB	縄文土器	甕	9-8	98.199	80.680	210.833		
142	GHD	FB	縄文土器	甕	9-8	99.694	80.109	210.029		
155	GHD	K3	縄文土器	甕	9-8	90.165	83.470	211.331		
157	GHD	K3	縄文土器	甕	9-8	90.546	82.612	211.085		
159	GHD	K3	縄文土器	甕	9-8	92.376	80.014	210.338		
162	GHD	K3	縄文土器	甕	9-7	91.803	79.543	210.561		
166	GHD	K3	縄文土器	甕	9-7	91.548	79.561	210.655		
174	GHD	K3	縄文土器	甕	9-7	91.048	78.186	210.797		
175	GHD	K3	縄文土器	甕	9-8	90.987	80.425	210.766		
201	GHD	K3	縄文土器	甕	9-8	94.954	82.199	210.669		
204	GHD	FB	縄文土器	甕	8-8	88.537	85.079	211.307		
211	GHD	FB	縄文土器	甕	8-8	88.729	85.082	211.127		
252	GHD	FB	縄文土器	甕	9-8	93.178	89.247	211.437		

第6表 縄文時代石器一覽表(1)

器物番号	遺跡番号	種別	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	X線撮影	Y線撮影	Z線撮影	
1	88	GHD	新文	石	6.4	1.0	8.1	90.0	97.662	83.387
2	205	GHD	K3	石	15.0	4.6	10.7	105.0	97.893	91.591
3	119	GHD	新文	石	12.7	3.2	8.7	83.0	92.204	87.424
4	191	GHD	FB	石	14.7	3.2	11.7	104.0	93.006	91.229
5	196	GHD	FB	石	11.5	2.6	11.1	70.0	95.810	80.520
6	94	GHD	新文	石	15.8	5.5	10.5	113.0	100.138	84.972
7	118	GHD	新文	石	11.3	5.2	7.7	106.0	93.880	92.261

第7表 縄文時代石器一覽表(2)

器物番号	遺跡番号	種別	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	X線撮影	Y線撮影	Z線撮影	
9	176	GHD	K3	石	14.8	2.5	15.2	246.26	91.344	84.450
10	285	GHD	K3	石	26.6	6.1	19.0	437.28	94.390	78.794
87	GHD	新文	石	1.8	0.5	0.9	98.013	84.156	212.054	
107	GHD	新文	石	1.3	0.5	1.5	89.760	86.618	211.064	
124	GHD	K3	石	3.0	0.7	1.3	96.765	84.299	210.661	
189	GHD	K3	石	2.1	1.2	3.0	79.1004	79.177	210.703	
207	GHD	FB	石	1.5	0.9	1.8	14.93584	87.843	214.403	
209	GHD	FB	石	3.3	0.7	2.3	88.1826	92.590	211.796	
210	GHD	FB	石	1.6	0.5	1.6	94.959	91.012	211.277	
251	GHD	FB	石	3.1	0.7	2.6	86.9394	86.817	210.930	
280	GHD	FB	石	5.2	0.5	2.1	86.97135	86.808	211.011	
281	GHD	FB	石	1.9	1.0	1.3	25.94684	83.113	210.602	

第8表 縄文時代鏃一覽表(1)

器物番号	遺跡番号	種別	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	X線撮影	Y線撮影	Z線撮影	
51	GHD	新文	鏃	A2	66	96.03	9-9	92.018	91.757	211.775
52	GHD	新文	鏃	B1.2	66	44.03	9-9	91.021	91.083	211.748
53	GHD	新文	鏃	B2	66	24.03	9-9	92.153	91.928	211.880
54	GHD	新文	鏃	B2	66	132.0	9-9	92.015	91.325	211.838
55	GHD	新文	鏃	B2	66	120.0	9-9	92.652	91.332	211.809
56	GHD	新文	鏃	B2	66	114.0	9-9	92.350	91.267	211.742
57	GHD	新文	鏃	B2	66	86.0	9-9	92.656	92.632	211.702
58	GHD	新文	鏃	C2	66	89.0	9-9	93.746	91.960	211.670
59	GHD	新文	鏃	B2	66	116.0	9-9	93.010	90.290	211.586
60	GHD	新文	鏃	A2	66	83.03	9-8	93.069	89.263	211.772
61	GHD	新文	鏃	B2	SSH	28.0	9-8	94.020	89.484	211.720
62	GHD	新文	鏃	B1.1	66	159.0	9-9	95.474	90.320	211.648
63	GHD	新文	鏃	B1.2	66	64.0	9-9	95.315	90.381	211.761
64	GHD	新文	鏃	B2	66	87.0	9-9	95.327	90.341	211.688
65	GHD	新文	鏃	B1.1	66	59.0	9-9	95.994	91.194	211.698
66	GHD	新文	鏃	B2	66	135.0	9-9	96.357	90.693	211.828
67	GHD	新文	鏃	B2	66	107.0	9-8	95.850	89.004	211.437
68	GHD	新文	鏃	B1.2	66	127.0	9-8	95.965	88.019	211.511
69	GHD	新文	鏃	A2	66	276.0	9-8	94.299	88.197	211.308
70	GHD	新文	鏃	B2	66	216.0	9-8	94.750	86.129	211.679
71	GHD	新文	鏃	B2	66	256.0	9-8	94.381	88.184	211.713
73	GHD	新文	鏃	A1	66	311.0	9-8	94.321	87.761	211.568

第9表 縄文時代隣一覽表(2)

器物番号	山王遺跡	福住	横田	石坪	根白堂町	遺長	北70°E/F	X座標	Y座標	Z座標
74	GIRD	新5C	溝	B2	As	32.0	0.8	95.105	86.006	211.355
75	GIRD	新5C	溝	B2	As	33.0	0.8	95.235	85.641	211.847
76	GIRD	新5C	溝	B2	As	376.0	0.8	95.713	86.250	211.365
77	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	82.0	0.8	95.840	86.185	211.306
78	GIRD	新5C	溝	B2	As	97.701	0.8	97.701	87.671	211.374
79	GIRD	新5C	溝	B2	As	24.0	0.8	97.656	87.675	211.411
80	GIRD	新5C	溝	B2	As	13.0	0.8	97.620	87.705	211.431
81	GIRD	新5C	溝	B2	As	63.0	0.8	97.531	88.139	211.375
82	GIRD	新5C	溝	B2	SSH	105.0	0.8	96.379	83.768	211.062
83	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	97.462	0.8	97.462	85.877	211.194
84	GIRD	新5C	溝	B2	As	37.0	0.8	97.566	85.446	211.198
85	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	24.0	0.8	97.473	85.149	211.198
86	GIRD	新5C	溝	B2	As	133.0	0.8	97.970	85.071	211.408
90	GIRD	新5C	溝	B2	As	476.0	0.8	95.684	82.272	211.727
91	GIRD	新5C	溝	B2	As	802.0	0.8	95.378	82.305	211.759
92	GIRD	新5C	溝	B2	As	254.0	0.8	92.663	91.685	211.662
93	GIRD	新5C	溝	B1	As	1311.0	0.8	94.827	90.458	211.735
94	GIRD	新5C	溝	B2	As	602.0	0.8	95.203	88.126	211.514
96	GIRD	新5C	溝	B2	As	376.0	0.8	98.908	87.427	211.320
97	GIRD	新5C	溝	B2	As	771.0	0.8	97.541	87.234	211.421
98	GIRD	新5C	溝	B1	As	371.0	0.8	98.427	86.291	211.403
99	GIRD	新5C	溝	B2	As	417.0	0.8	96.531	85.633	211.464
100	GIRD	新5C	溝	B1	As	136.0	0.8	95.611	85.590	211.098
101	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	817.0	0.8	95.788	84.667	211.012
102	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	359.0	0.8	96.869	84.506	211.252
103	GIRD	新5C	溝	B2	As	531.0	0.8	97.778	84.451	211.247
104	GIRD	新5C	溝	B2	As	1853.0	0.8	98.981	84.243	211.072
105	GIRD	新5C	溝	B2	As	210.0	0.8	97.621	83.846	210.970
106	GIRD	新5C	溝	B2	As	174.0	0.8	97.873	84.860	210.932
109	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	238.0	0.8	97.053	83.769	211.061
110	GIRD	新5C	溝	B1	As	30.0	0.8	97.084	87.702	211.365
111	GIRD	新5C	溝	B1	As	93.0	0.8	97.146	87.405	211.122
112	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	723.0	0.8	95.669	82.201	211.713
113	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	972.0	0.8	98.050	88.003	211.263
114	GIRD	新5C	溝	B2	As	40.0	10.8	100.120	80.135	211.063
115	GIRD	新5C	溝	B2	As	1005.0	0.8	98.167	82.661	210.746
116	GIRD	新5C	溝	B1.2	As	872.0	0.8	99.253	83.471	211.039
117	GIRD	新5C	溝	B1.1	As	279.0	10.8	100.149	83.006	211.012
120	GIRD	KU	溝	B1.2	As	496.0	0.8	99.862	85.588	210.922
121	GIRD	KU	溝	B1.2	As	69.0	0.8	99.589	85.371	210.811
123	GIRD	KU	溝	B2	As	18.0	0.8	96.451	88.111	211.200

第10表 縄文時代隣一覽表(3)

器物番号	山王遺跡	福住	横田	石坪	根白堂町	遺長	北70°E/F	X座標	Y座標	Z座標
125	GIRD	溝	B2	As	As	481.0	10.8	100.189	82.641	210.607
136	GIRD	溝	B2	As	As	2787.0	10.8	100.967	84.774	210.627
127	GIRD	溝	B2	As	As	799.0	10.8	99.148	84.781	210.517
128	GIRD	溝	B1.2	As	As	580.0	9.8	99.689	83.755	210.427
129	GIRD	溝	B2	As	As	783.0	9.8	99.409	83.670	210.405
136	GIRD	溝	C2	As	SSH	166.0	10.8	100.109	82.317	210.372
137	GIRD	溝	溝	SSH	As	5.3	10.0	101.610	82.269	210.456
138	GIRD	溝	溝	SSH	As	17.7	10.8	101.698	80.500	210.145
144	GIRD	溝	溝	B.1	As	23.5	10.8	100.862	83.197	210.202
145	GIRD	溝	溝	As	As	501.0	10.8	100.965	84.984	210.587
147	GIRD	溝	溝	B2	As	463.0	9.8	97.883	82.127	209.960
148	GIRD	溝	B2	As	As	865.0	9.8	95.367	81.028	210.808
149	GIRD	KU	溝	B2	As	891.0	9.8	95.236	81.374	210.935
150	GIRD	KU	溝	As	As	773.0	9.8	96.485	81.079	210.932
151	GIRD	KU	溝	B2	As	153.0	9.8	95.932	79.962	210.864
152	GIRD	KU	溝	B2	As	519.0	9.8	95.721	82.082	210.911
177	GIRD	KU	溝	B2	As	665.0	9.8	89.866	83.135	211.004
178	GIRD	KU	溝	B1.2	As	588.0	9.8	90.032	82.942	211.087
179	GIRD	KU	溝	B1.1	As	195.0	9.8	91.997	83.213	211.113
180	GIRD	KU	溝	B1.2	As	326.0	9.8	92.110	80.420	210.824
181	GIRD	KU	溝	B2	As	103.0	9.7	92.734	79.900	210.781
182	GIRD	KU	溝	B1.1	As	182	9.8	92.912	78.889	210.586
183	GIRD	KU	溝	B1	As	883.0	9.7	92.943	78.988	210.730
184	GIRD	KU	溝	B2	As	386.0	9.8	93.965	81.317	210.954
185	GIRD	溝	B1.2	As	As	2.0	9.8	93.260	81.453	210.495
186	GIRD	KU	溝	B2	As	20.0	9.8	94.740	80.434	210.617
187	GIRD	KU	溝	B1.2	As	203.0	9.8	94.832	82.381	210.688
182	GIRD	溝	B2	As	As	2922.0	9.8	90.441	87.943	211.350
193	GIRD	溝	B2	As	As	1071.0	9.8	90.034	90.276	211.660
194	GIRD	溝	B2	As	As	7548.0	9.8	92.097	88.486	211.361
195	GIRD	溝	B2	As	As	1051.0	9.8	93.999	90.064	211.498
196	GIRD	溝	B2	As	As	286.0	9.9	93.905	92.963	211.501
198	GIRD	溝	B2	As	As	4123.0	9.8	94.414	92.856	211.493
199	GIRD	溝	B2	As	As	1378.0	9.8	94.987	85.353	211.024
200	GIRD	溝	B2	As	As	321.0	9.8	93.633	83.984	211.008
212	GIRD	溝	B2	As	As	784.0	9.8	94.566	83.353	210.980
213	GIRD	溝	B2	As	As	107.0	9.8	90.327	87.800	211.245
214	GIRD	溝	B2	SSH	As	14.0	9.8	91.498	88.079	211.200
215	GIRD	溝	B2	As	As	12.0	9.8	91.383	86.093	211.399
216	GIRD	溝	B1	As	As	193.0	9.9	90.393	90.354	211.735
218	GIRD	溝	B1.2	As	As	114.0	9.9	94.432	92.656	211.518

第11表 縄文時代竊一覽表(4)

器物番号	山王遺跡	幅位	器種	状態	石材	部位番号	重量	全長×口径	X線検査	Y線検査	Z線検査
219	GIRD	FR	罎	B2	An		26.0	9.8	93.975	92.123	211.473
221	GIRD	FR	罎	B2	An		335.0	9.9	94.194	91.816	211.657
222	GIRD	FR	罎	B2	An		178.0	9.9	93.301	91.100	211.414
223	GIRD	FR	罎	B1.1	An		133.0	9.9	93.119	91.102	211.348
224	GIRD	FR	罎	B1	An		128.0	9.9	93.009	91.137	211.552
225	GIRD	FR	罎	A2	An		159.0	9.9	94.937	90.606	211.257
226	GIRD	FR	罎	B1.2	An		292.0	9.9	94.700	93.195	211.257
227	GIRD	FR	罎	B1.2	An		148.0	9.8	94.765	89.824	211.309
228	GIRD	FR	罎	B1.2	An		24.0	9.8	95.663	86.570	211.282
229	GIRD	FR	罎	B1.2	An		63.0	9.8	95.271	88.800	211.217
230	GIRD	FR	罎	B1.2	An		103.0	9.8	95.291	88.605	211.194
231	GIRD	FR	罎	B2	An		7.0	9.8	95.217	88.545	211.116
232	GIRD	FR	罎	B1	An		142.0	9.8	94.960	88.473	211.237
233	GIRD	FR	罎	B1.1	An		23.0	9.8	94.402	88.756	211.334
234	GIRD	FR	罎	B1	An		318.0	9.8	94.910	87.077	211.526
235	GIRD	FR	罎	B1.2	An		83.0	9.8	95.489	87.049	211.198
236	GIRD	FR	罎	B1.2	An		48.0	9.8	94.272	87.048	211.223
237	GIRD	FR	罎	B2	An		150.0	9.8	93.649	84.411	211.028
238	GIRD	FR	罎	B1	An		147.0	9.8	95.268	85.269	211.016
239	GIRD	FR	罎	A2	An		317.0	9.8	96.174	84.228	210.885
240	GIRD	FR	罎	B2	An		13.0	9.8	96.432	81.874	210.862
241	GIRD	FR	罎	B2	An		17.0	9.8	98.995	85.071	210.877
242	GIRD	FR	罎	B1.2	An		35.0	9.8	97.846	87.796	211.067
243	GIRD	FR	罎	A1	An		362.0	9.8	96.378	86.702	210.974
244	GIRD	FR	罎	B2	An		360.0	9.8	93.074	80.401	211.403
245	GIRD	FR	罎	B1.1	An		51.0	9.8	92.240	89.149	211.442
246	GIRD	FR	罎	B1.1	An		190.0	9.8	92.248	86.382	211.427
247	GIRD	FR	罎	A2	An		462.0	9.8	92.653	89.740	211.862
248	GIRD	FR	罎	B2	An		140.0	9.8	92.133	89.725	211.469
249	GIRD	FR	罎	A2	An		223.0	9.8	92.814	89.894	211.532
250	GIRD	FR	罎	B2	An		16.0	9.8	96.997	87.661	211.458
251	GIRD	FR	罎	B2	An		234.0	9.9	94.794	90.465	211.458
252	GIRD	FR	罎	B2	An		580.0	9.8	96.663	85.307	210.835
253	GIRD	FR	罎	B1.1	An		187.0	9.8	92.707	84.402	211.092
254	GIRD	FR	罎	B1.2	An		371.0	9.8	93.964	85.940	211.811
255	GIRD	FR	罎	B2	An		747.0	9.8	90.181	83.305	211.000
256	GIRD	FR	罎	A1	An		32.0	9.8	95.808	88.031	211.131
257	GIRD	FR	罎	A1	An		263.0	9.8	95.948	88.033	211.104
258	GIRD	FR	罎	B1.2	An		169.0	9.8	96.059	87.969	211.100
259	GIRD	FR	罎	A2	An		177.0	9.8	96.348	88.130	211.062

第12表 縄文時代竊一覽表(5)

器物番号	山王遺跡	幅位	器種	状態	石材	部位番号	重量	全長×口径	X線検査	Y線検査	Z線検査
263	GIRD	FR	罎	B2	An		348.0	9.8	95.976	86.762	211.006
264	GIRD	FR	罎	B2	An		113.0	9.9	95.244	89.642	211.249
265	GIRD	FR	罎	B1.1	An		26.0	9.9	96.241	90.401	211.423
266	GIRD	FR	罎	B2	An		74.0	9.9	96.441	90.808	211.478
267	GIRD	FR	罎	B2	An		48.0	9.9	96.927	90.963	211.408
268	GIRD	FR	罎	B1.1	An		237.0	9.9	96.713	91.336	211.469
269	GIRD	FR	罎	B1.2	An		238.0	9.9	95.992	91.265	211.392
270	GIRD	FR	罎	A2	An		224.0	9.9	95.755	92.721	211.439
271	GIRD	FR	罎	B2	An		30.0	9.8	95.815	88.298	211.110
272	GIRD	FR	罎	B2	An		23.0	9.8	95.491	88.956	211.130
273	GIRD	FR	罎	B2	An		110.0	9.8	95.763	88.913	211.024
274	GIRD	FR	罎	B2	An		124.0	9.8	95.829	88.381	211.076
275	GIRD	FR	罎	C2	An		115.0	9.8	95.962	87.457	210.897
276	GIRD	FR	罎	B1.1	An		108.0	9.8	96.968	96.947	210.884
277	GIRD	FR	罎	A1	An		142.0	9.8	96.414	86.414	210.803
278	GIRD	FR	罎	B1.2	An		10.0	9.9	96.482	90.125	211.229
279	GIRD	FR	罎	B1.1	An		293.0	9.8	95.480	88.966	211.092
280	GIRD	FR	罎	B2	An		120.0	9.9	95.427	90.502	211.262
281	GIRD	FR	罎	B2	An		28.0	9.9	95.163	90.800	211.244
282	GIRD	FR	罎	B2	An		1003.0	9.8	96.617	85.979	211.011
283	GIRD	FR	罎	A2	An		2258.0	9.8	97.933	86.856	211.029
284	GIRD	FR	罎	C2	An		463.0	9.8	98.099	87.034	210.938
285	GIRD	FR	罎	C2	An		80.0	9.9	94.889	90.542	211.325
286	GIRD	FR	罎	A2	An		72.0	9.9	95.946	90.658	211.262
287	GIRD	FR	罎	B2	An		20.0	9.9	95.282	91.311	211.344
288	GIRD	FR	罎	A2	An		355.0	9.9	92.800	89.721	211.833
289	GIRD	FR	罎	B2	An		121.0	9.9	94.646	82.117	211.349
290	GIRD	FR	罎	B2	An		9.7	90.741	79.737	210.720	
291	GIRD	FR	罎	B1.2	An		78.0	9.9	95.122	90.730	211.023
292	GIRD	FR	罎	B1.1	An		475.0	9.9	94.948	90.903	211.226
293	GIRD	FR	罎	B1.1	An		422.0	9.8	95.194	89.319	211.297
294	GIRD	FR	罎	B2	An		33.0	9.8	93.728	83.807	210.637
295	GIRD	FR	罎	B2	An		28.0	9.8	94.298	87.007	211.195

写 真 图 版



愛鷹山麓（南より）



愛鷹山南東麓（南より）

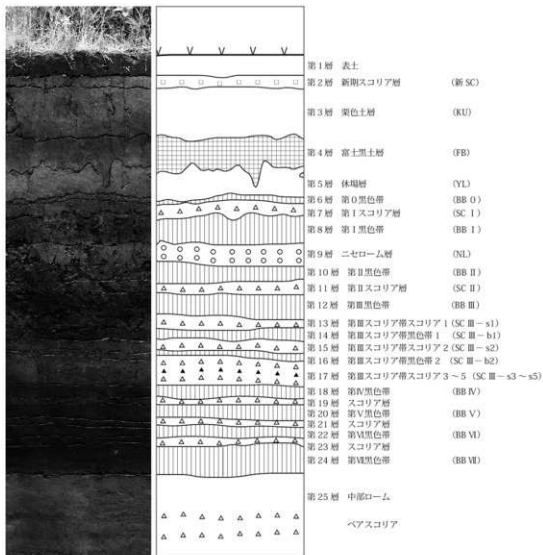
PL. 2



拓南遺跡（西より）



拓南遺跡（東より）



愛鷹ローム標準土層（ニツ洞遺跡）

PL. 4



休場層第1号・第2号ブロック（東より）



休場層第1号ブロック（南より）



新期 SC 層～FB 層遺構検出状況（東より）



SX1 検出状況（南より）

PL. 6



SX1 半截状況 (南より)



SX1 完掘状況 (南より)



SX2 完掘状況（西より）



SX3 検出状況（東より）



SX3 半截状況 (東より)



SX3 完掘状況 (東より)



SX1・SX2・SX3 完掘状況（南より）



新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（東より）



新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（北より）



新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（南より）



新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（東より）



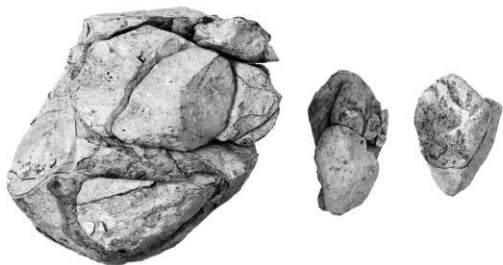
新期 SC 層～FB 層遺物出土状況（東より）



休場層出土石器 (ナイフ・RF・石核)



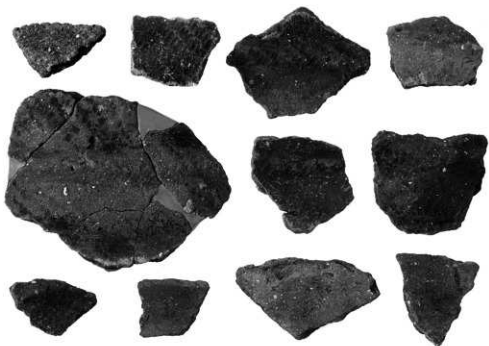
休場層出土石器 (石核)



休場層出土石器（接合資料）



第1群 a 類土器（上段～下段左）・b 類土器（下段右）



第2群a類土器（上段～下段左）・b類土器（下段右）



第2群b類土器



縄文時代遺構外出土石器 (RF・UF)



縄文時代遺構外出土石器 (磨石・礫斧)



縄文時代遺構外出土石器（石皿）

報告書抄録

ふりがな	たくないせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	拓南遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第101集							
編者名	前嶋秀彦							
編集機関	沼津市教育委員会							
所在地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号 TEL055-931-2500 西							
発行年月日	西暦 2011年3月10日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
拓南遺跡	沼津市足高尾上	22203	140	35° 09' 39"	138° 51' 22"	20090420	280㎡	駐車場整備
				日本測地系		~		
				35° 09' 27"	138° 51' 33"	20090731		
所収遺跡名	種別	主な年代		主な遺構		主な遺物		特記事項
拓南遺跡	集落跡	旧石器時代 (体場層)		石器ブロック2		ナイフ形石器、加工痕のある 剥片、石核、剥片、砕片、礫		
	散布地	縄文時代		小穴3		早期土器片(備沢式、茅山上 層式)、加工痕のある剥片、 磨石、磨石、石皿、剥片、砕片、 礫		
要 約	旧石器時代							
	<p>体場層は、2箇所のブロックから検出された33点と単出土の3点、合計36点の石器群によって構成される小規模な文化層である。石器組成はナイフ形石器1点、加工痕のある剥片1点、石核5点、剥片・砕片29点である。石材組成は、第一石材が富士川系ホルンフェルスであり、出土点数・重量ともに比率が高い。石器石材は、ナイフ形石器1点が黒曜石である。石核と剥片の石材は富士川系ホルンフェルスが占める割合が高い。剥片剥離技術は、石刃技法を技術基盤として石刃・縦長剥片を作出している。本文化層は、ナイフ形石器石器群の最も新しい段階に位置づけられると思われる。</p>							
要 約	縄文時代							
	<p>縄文時代の遺構としては、縄文時代早期に構築されたと推定される性格不明の遺構3基を検出した。遺物は富士土層から栗色土層にかけて縄文時代の土器55点、石器20点、礫179点が出土した。土器は早期前葉の押型文と早期後葉の茅山上層式と考えられる。石器は食料加工具と考えられる磨石2点・石皿3点などが出土し、縄文時代早期に属するものと思われる。これらの遺構と遺物から、本調査地点は縄文時代早期に食料加工具を用いる場として利用されていたと考えられる。</p>							

沼津市文化財調査報告書 第101集

拓南遺跡発掘調査報告書

平成23年3月10日 印刷

平成23年3月10日 発行

編集／沼津市教育委員会

発行／沼津市教育委員会

沼津市御幸町16番1号

TEL (055) 931-2500(代)

印刷／みどり美術印刷株式会社